

アジアの高齢者ケアと外国人介護人材の育成

経営情報学科 **天野 ゆかり**

●連絡先 TEL：054-264-5421

キーワード

介護人材, アジア, 高齢者ケア, 介護留学生,
経済連携協定, 技能実習, 特定技能



急速な人口の高齢化に伴う医療・介護人材、高齢者の健康増進やケアの質の確保は世界規模の喫緊課題である。日本政府は、アジアにおいて、急速に進む高齢化に対応した Universal Health Coverage (UHC) と健康長寿社会を実現するため、「アジア健康構想」を立ち上げた。特に介護人材確保の課題においては、日本国内の対応にとどまらず、介護事業と人材の好循環をはかり、アジアの高齢化と介護システムの開発に貢献するという役割を担っている。本研究では、高齢化と介護人材のグローバル化が進展する中、国内外の関係機関の調査を通し、アジア各国における高齢者ケアの特徴を明らかにし、介護人材の育成と確保の持続可能性について検討している。



写真1 ベトナムの看護大学との交流



写真2 中国の行政関係者等との意見交換

アピールポイント

高齢者ケアに関する人材確保と育成については、日本だけでなくアジアでも注目度の高いテーマとなっています。

周期性のある事象に対するデータ解析のための確率モデルの構成とその応用

経営情報学科 井本 智明

●連絡先 TEL: 054-264-5449

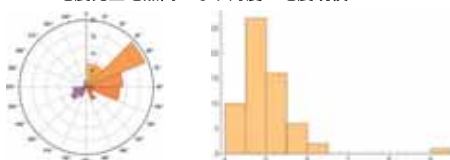
キーワード

統計科学, 方向統計学

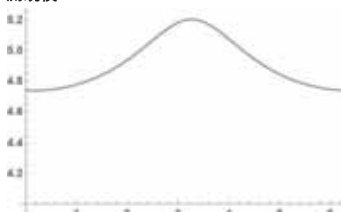


風向や動植物の移動方向のような角度データや、日毎のレストラン来客者数や月毎の観光スポット訪問者数のような時間データのように、周期性のあるデータは円周上データとよばれる。このようなデータを分析し、意味のある結論を導くためには、周期性のあるモデルを用いた統計分析が必要となってくる。この際、データの発生背景を説明でき、かつ発生傾向を上手く表現できるモデルを利用することで、矛盾のない正確な情報をデータから抜き出すことができる。また、そのようなモデルを拡張し、複数の円周上データを組み合わせた超球面上データや、円周上データと周期性のないデータを組み合わせたシリンダー上データを扱うための確率モデルを用いることで多くの情報を利用した分析も可能となる。本研究では、そうした確率モデルの導出や、導出モデルを利用したデータ分析法や予測法に関わる研究を行っている。

地震発生地点間のなす角度と地震規模

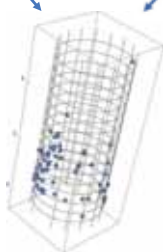


予測規模



モデルから予測

シリンダー上での表現



アピールポイント

ICTイノベーション研究センターのメンバーの一員です。

マーケティング



経営情報学科 岩崎 邦彦

●連絡先 TEL : 054-264-5425 FAX : 054-264-5425

キーワード

マーケティング, ブランドづくり,
マーケティング・リサーチ

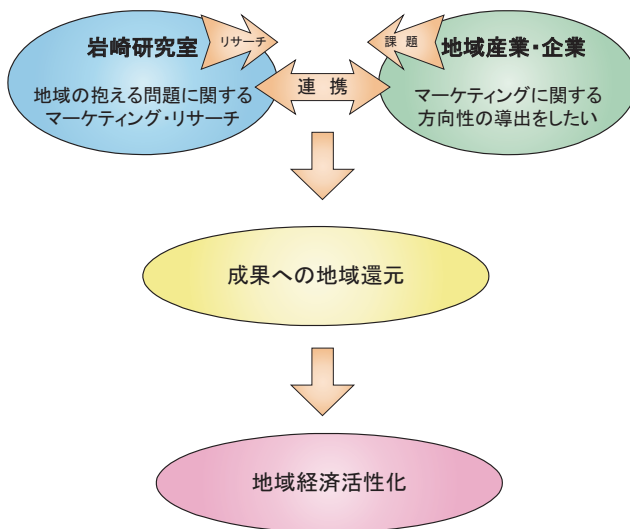


岩崎研究室の研究テーマは、マーケティングです。とくに、地域に関するマーケティング課題の解決に力を入れています。これまで、岩崎研究室では、行政、業界団体、企業等と積極的な連携を行い、地域に対して研究成果を積極的に還元してきました。具体的な研究分野は、地域のマーケティング、中小企業マーケティング、農産物のマーケティングなどです。

最近の受託研究の例は、以下のとおりです。

- ・緑茶及び緑茶飲料の普及のためのマーケティング
- ・地域産品に関するマーケティング研究
- ・観光・地域のブランド構築のためのマーケティング研究
- ・顧客満足度調査とブランディングの研究 他

研究室の活動概要は、ウェブサイトもご覧ください。 <https://iwasaki-marketing.jp/>



アピールポイント

岩崎研究室では、マーケティング研究を通じて、地域の抱える諸問題の解決を行い、地域社会に貢献していきたいと考えています。

企業会計基準が金融規制に与える影響に関する研究

経営情報学科 上野 雄史

●連絡先 TEL: 054-264-5241 FAX: 054-264-5008

キーワード

公正価値, プロシクリシティ, 金融規制,
会計基準



サブプライム・ローンの問題が会計に投げかけたものは何であろうか。人によって思い浮かべることは様々かもしれない。サブプライム・ローンに対する公正価値測定が曖昧であったことが、会計学者のみならず多くの学識者、メディア、新聞などの報道関係者、政治家による批判の対象になった。さらに、サブプライム・ローンの問題に端を発して、『時価評価』が実体経済に悪影響をもたらすということも現実には懸念されるようになった。いわゆる、プロシクリシティ (pro-cyclicality: 景気循環増幅効果) の問題である。プロシクリシティが顕在化すると、時価の評価が金融機関の信用力低下をもたらし、さらには、信用市場の収縮による実体経済に影響を及ぼすという悪循環をもたらす。

時価(公正価値)の是非は別として、サブプライム・ローンの問題で気づかされたのは、会計が実態社会において果たしている役割が、我々の気づかない間に拡大していたという事実ではないだろうか。

金融業に対する最終的な監督責任は、金融規制を担う監督当局にある。しかし、この20年の間、日本を含む欧米先進国においては、規制緩和に伴う金融の自由化が進み、監督の役割を『市場規律』に委ねられる方式に変化していった。いわゆる事前規制から事後規制へのシフトである。市場規律を働かせるために、重要な役割を果たしていたのが会計である。一般に公正妥当な会計基準で作成された財務諸表が、監督目的においても実質的に利用されるようになった。

金融規制と会計基準の境界線が徐々に曖昧になりつつある。金融規制と会計基準とはその役割は異なっている。金融規制は金融機関の健全性を保つためのものであり、会計基準は意思決定に有用な情報を利害関係者に提供するためにある。しかしながら、目的の相違はあるものの、『市場規律を活用する』ために、金融規制と会計基準との協調が求められ、時には政治的な介入も許容せざるを得ない事態が生じている。本研究は、金融規制と会計基準との関係に着目し、その諸問題を明らかにすべく取り組んでいる。

人材マネジメントと労働経済、雇用政策



経営情報学科 上原 克仁

● 連絡先 TEL: 054-264-5426

キーワード

人材マネジメント、雇用政策、生産性向上、働き方改革、学生のキャリア



「働き方改革」や「女性活躍推進」などといったキーワードが新聞紙上を賑わせてから、かなりの年月が経ちました。法改正がなされ、「うちの会社も新たな制度を導入したから大丈夫」。それで満足していませんか。果たして、従業員の満足度や生産性の向上、勤続年数の長期化などといった目に見える形で、その効果が表れていますでしょうか？企業の人事ならびに業績データが公にされることが少ない中、データを入手して、統計ならびに計量分析の手法を用いて、企業の人材マネジメントに関する研究を行っています。

また、近年は、企業の人材マネジメントと関連のある雇用や社会政策、具体的には、出生数や出生率の低下、若年者の大都市圏への人口流出、子育て世代女性の低い就業率、人口の社会減といった静岡県の実状を、出生数や出生率の向上、若年者の静岡定住、子育てしながら働きやすい街づくり、人口の社会増・自然増へと好転させるべく、経済学や経営学の観点から、学生や県内市町とともに取り組んでいます。



アピールポイント

従業員や市民にとって魅力ある制度や政策の実現は、企業や街、県を元気にします。

観光とまち・観光と建築・観光と人

経営情報学科

(観光マネジメントメジャー) 内海 佐和子

(本研究内容についてご興味のある方は、地域・産学連携推進室までご連絡ください。)
TEL : 054-264-5124 E-Mail : renkei@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

世界遺産、観光地化、景観変容、ベトナム、
東南アジアの住居、建築計画、都市計画



1994年から30年近くにわたり継続して、ベトナムの世界遺産・古都ホイアンにおいて定点観察による調査を行い、そこから得たデータにより、現地の観光地化や町並みおよび居住空間の観光地化に伴う変容などの研究を行っています。

この他に、同じベトナムでは、ハノイ旧市街を対象とした町の観光地化に関する研究も行っており、ホイアンやハノイの都市や建築、観光に関する著書や研究があります。また、専門が建築計画であることから、東南アジアの住居に関する研究や、海外に住む日本人の居住文化に関する研究も行うなど、「観光」を軸としつつ、そこに「まち」、「建築」、「人」といった切り口を加えた研究を行っています。



世界遺産リスト登録を契機に観光地化が激化したホイアン



ホイアンの世界遺産リスト登録20周年記念国際シンポジウムでの招待講演

アピール ポイント

テレビのクイズ番組であつかう問題・解答の監修も行っています。

観光をキーワードとした地域活性につながる研究



経営情報学科

(観光マネジメントメジャー)

大久保 あかね

● 連絡先

E-Mail: akane@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

観光統計

観光, 地域振興, 地域活性化, 産学協同, 観光調査,



観光客を対象として、対面・Web や、ヒアリング、行動観察、SNS など様々な調査を行うとともに、観光に関わる諸活動の効果分析などを実施し、地域活性につながる提案につなげています。

静岡県は、富士山や駿河湾、温泉などの自然資源や、豊かな食材を核とした食文化、東海道等の歴史に加え、ユニークな産業など、あらゆる観光資源に恵まれた魅力的な地域です。それらの資源を活用し、地域に暮らす方々にも、観光客にも満足度の高い観光のあり方を考えています。

ゼミには地域への貢献意欲の高い学生が多く、様々な自治体や企業の皆さまとの協働事業に取り組んでいます。

地方自治体等との共同実績

2019年度 小山町「金太郎を活用した所品開発」

2020年度 小山町「東京2020オリンピック・パラリンピック協議大会レガシーの創出提案」

伊豆市「#伊豆市いいね を活用した広報戦略」

2021年度 小山町「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の効果分析及びレガシーの創出提案」

島田市「島田市のご利益スポットを連携・周遊させる手法の提案」

2022年度 静岡市「中部横断自動車道の開通による経済効果と波及方策」

小山町「スポーツツーリズムの促進による関係人口の拡大と情報発信」

島田市「島田市のご利益スポットを連携・周遊させる手法のブラッシュ・改善提案」

静岡鉄道株式会社「静岡県立大学との有機的結合が静岡鉄道の沿線活性化に対してもたらす効果」

2023年度 丸福製茶株式会社「静岡市内におけるティーツーリズムの促進による地域活性化」



他

『観光と地域振興』
(2019年) 中央経済社

地域回遊促進に向けた情報推薦システム構築技術の研究開発

経営情報学科 大久保 誠也

●連絡先 TEL：054-264-5401 FAX：054-264-5401

キーワード

地域回遊促進, ソーシャルメディア, 道路網データ, 最適ルート

本研究の目的は、観光スポット巡り、街の食べ歩きなどする回遊者に対し、便利かつ適切なルートを提示可能な情報推薦技術を確立し、回遊者の満足度を向上させ、リピータを増やすことで、地域経済や産業の活性化を実現することである。本情報推薦技術では、ソーシャルメディア(SNS)データ、道路網データ、静岡県オープンデータを利用し、代表的なマーケットバスケット分析データマイニング技術を土台に、多くのユーザが同時に興味を持つスポットや店舗の組合せをSNS解析により抽出し、観光学の知見なども考慮して順位付けし、その結果をスマートフォンの地図上に回遊ルートとして表示する。

アピールポイント

本研究はICTイノベーション研究センター活動としても取り組んでいます。

情報の非対称性の下での食品貿易・経済成長と国際食料価格



経営情報学科

沖本 まどか

● 連絡先

TEL : 054-264-5442

キーワード

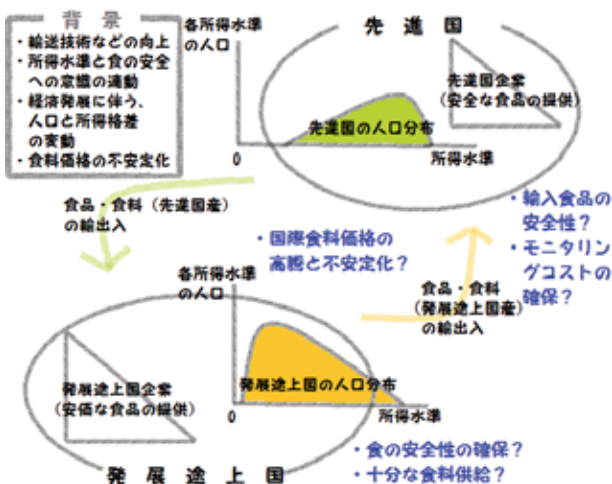
食品貿易, 国際食料価格, 食の安全, 食料安全保障, 経済成長



今日、世界的な人口の急増を背景として食料安全保障が問題化していることに加え、とりわけ先進国では外国産(主に発展途上国産)食品の安全性が問題となっている。また、昨今の食料価格の高騰と不安定化は、安全な食料・食品を、いかに十分に先進国だけでなく発展途上国にも供給するか、という問題を悪化させると考えられる。

本研究は、以上の社会問題を背景として、食料・食品の安全性に関する情報が非対称であることに起因してリスクが生じる場合、消費者の安全を確保しつつ、食料・食品貿易に際する国際的な摩擦を極力小さくするための政策や、食料の安定的な供給を保障するための政策を、経済理論に即して導くものである。また本研究では、単独政策だけでなく、複数の政策からなる複合政策についても、分析を行う。

食料・食品貿易に関する理論的研究



アピールポイント

- ・理論分析、特に貿易論を専門としています。
- ・輸入食品の安全性と国際食料価格について、研究を行っています。

医用画像における臓器の抽出

経営情報学科 小田 紘久

●連絡先 E-Mail : hoda@u-shizuoka-ken.ac.jp

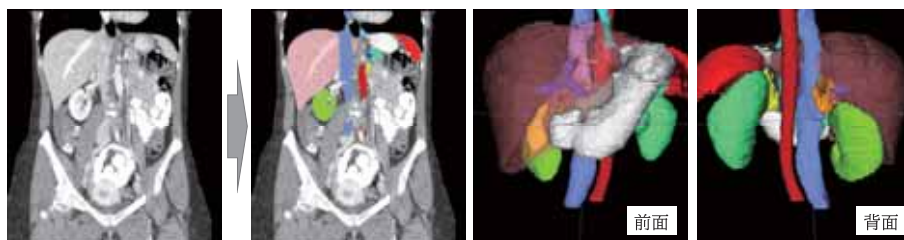
キーワード

コンピュータ診断支援, 医用システム, 画像処理

病院では、CT や MRI といった医用画像を用いて診断が行われている。これらの画像に対してコンピュータの画像処理を利用することで、より定量的かつ発展的に情報を取り出し、応用することが可能となる。図では、腹部 CT 像から臓器を自動抽出した結果を示す。

臓器の高精度な抽出により、立体的・定量的な理解の補助、3D プリントや医療器具の製造などに利用できる。現在はとりわけ心臓に注力し、画像処理および深層学習（ディープラーニング）を応用して、正確に抽出する技術を開発している。

なお深層学習を用いた正確な処理には、事前に教師データを大量に収集する必要があるが、医用画像では大量の収集は容易でない。少量のデータでも良好に抽出する手法や、誤った抽出結果を容易に修正する手法も検討中である。



CT 像

Landman, et al. (2015)

2D 表示

3D 表示

臓器抽出結果

アピールポイント

本研究は ICT イノベーション研究センター活動としても取り組んでいます。

企業の事業承継や後継者教育に関する研究



経営情報学科

落合 康裕

（本研究内容についてご興味のある方は、地域・産学連携推進室までご連絡ください。）
TEL：054-264-5124 E-Mail：renkei@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード 事業承継, ファミリービジネス, 後継者教育, イノベーション, 経営戦略, 企業家, ビジネスモデル, ガバナンス, 地域社会



企業の事業承継は、地域産業の健全な発展の成否を握っています。しかし、大都市への人口集中や後継者難による廃業数の増加等の環境変化に伴い、地域にとって事業承継が大きな課題となっています。

我々研究室では、なぜ企業によって事業承継の優劣があるのか、いかに革新をおこせる後継者を育てるのかについて日々研究しています。これまで、日本各地の老舗企業のフィールド調査を行い、知見の蓄積を図ってきました。

また、研究活動の還元の観点から、後継者教育についても積極的に取り組んでいます。例えば、最近では富士市主催の後継者向けワークショップや東京都新宿区主催の事業承継セミナー等を開催しました。

落合研究室は、今後も地域の事業承継に学術の観点から向き合い、行政機関や民間企業の皆様と協働を図りながら、実践的知見の開発と地域への還元に取り組めます。



経営情報学部

アピールポイント

主著『事業承継のジレンマ』（白桃書房）にて実践経営学会名東賞受賞。
行政機関や民間企業との連携による後継者教育の企画・運営。

ガストロノミーツーリズムによる茶産業コミュニティの活性化

経営情報学科

(観光分野・観光研究室)

カウクルアムアン・アムナー

Amnaj Khaokhruamuang

- 連絡先 TEL : 054-264-5477
E-Mail : amnaj@u-shizuoka-ken.ac.jp
- ホームページ <https://teatourism-labo.com>

キーワード

ガストロノミーツーリズム, 地域活性化,
美食茶観光, ティーツーリズム, 茶料理, 茶産業, 国際交流



タイと日本の茶産業コミュニティは、茶製品の低価格と若い農家不足により衰退している。

茶産業コミュニティへのガストロノミーティーツーリズム (Gastronomy Tea Tourism) を通じて、タイ人等のインバウンド観光客をターゲットとすることは、地域観光事業と経済活性化への魅力的な戦略になる。タイと日本の茶コミュニティを活性化するためのガストロノミーツーリズム (Gastronomy Tourism) における茶文化と茶製品の開発を目的とする。タイ・チェンライ県プラヤプライ村と静岡県梅ヶ島の交流プロジェクトを行い、茶文化商品化の4要素(茶空間、茶コミュニティ、茶製品とサービス、茶関連の活動)に基づき、以下の成果をあげる。美食茶観光に関する観光商品のティーガーデン、茶料理の健康的なレシピ、美食茶観光に関する散歩ルート、美食茶観光ガイドブック、観光ウェブページ作成である。



タイ・プラヤプライ村の茶料理「豚ひき肉のお茶の葉巻き」



静岡県梅ヶ島でのお茶作り体験

アピールポイント

観光客を誘致したい茶生産地域は、どのように茶料理を提供するべきでしょう。ご興味のある方は、ご相談ください。

国際経営，国際人的資源管理，グローバルタレントマネジメント

経営情報学科 **笠原 民子**

●連絡先

TEL：054-264-5435

●ホームページ

E-Mail：kasahara@u-shizuoka-ken.ac.jp

<https://db.u-shizuoka-ken.ac.jp/show/prof485.html>

<https://eng.u-shizuoka-ken.ac.jp/research/researchers/management/>

キーワード

国際経営，国際人的資源管理，
グローバルタレントマネジメント



海外市場で活躍する企業にとって、本国及びホスト国の人材マネジメントとは、企業の競争力を構築する上で非常に重要な課題となっています。しかし、本社の経営理念、戦略、マネジメント手法を海外子会社に移転し、実施することや、全世界の拠点に散在する優秀な人材を識別し、マネジメントすることは容易ではありません。なぜならば、本国とホスト国の間には様々な違いがあるからです。多国籍企業グループとして、グローバルな視点から本社、海外子会社の人材マネジメントをどのように効果的に行うのか、これがわたくしの近年の研究テーマとなっています。



2020年1月出版
Chap.8 "Kasahara, T. 2020. How do Japanese MNCs identify their talent? The neglected role of regional headquarters in GT M (in press). In D. Adhikari, H. Shoji (Eds.), *Management for a sustainable and inclusive development in a transforming Asia*, Springer Nature Singapore"



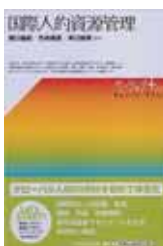
2019年出版
Chap.10 "Knowledge transfer and creation systems: Perspectives on corporate socialization mechanisms and human resource management"



2020年2月出版
「第15章 サービスのログタクト化とタレントマネジメント」



2019年5月出版
「第15章 グローバルタレントマネジメントと国際ビジネス」



2016年6月出版
「第7章国際人材育成」
「第8章国際報酬」
「第10章国際労使関係」



2014年2月出版
多国籍企業学会学術研究奨励賞受賞

アピールポイント

主に日本企業の海外子会社と連携しながら人材マネジメントの現状や課題等を把握する定量調査を実施し、その結果をふまえて協力企業の方々へアドバイスをしています。

人口減少下の公共政策

経営情報学科 経営情報イノベーション研究科 岸 昭雄

●連絡先 TEL：054-264-5445 FAX：054-264-5445

キーワード

人口減少社会，公共政策



「人口減少社会」という待ったなしの状況で、公共部門はどういった役割を果たすべきか？

今までの公共政策は、人口増加・経済成長を想定したいわゆる右肩上がりの社会を想定した上で計画、実行されてきた。しかしながら、そこで得られた様々な示唆(公共政策の効果、効率的な施行方法など)は、今後日本が直面する人口減少社会には当てはまらない。右肩下がり社会における公共政策のあり方を議論する必要がある。

近年、地方農村部の過疎化・高齢化による限界集落の問題がマスコミで取り上げられるようになってきた。これはまさしく人口減少社会が今後直面する問題であり、地方のコミュニティを維持するにはどうするか、そもそも維持すべきなのか、また限界集落における公共投資の効率性に関する問題をどうとらえるか、などといった深刻な問題を内包している。

持続可能な地域の仕組みづくりに関する研究



経営情報学科

木村 綾

● 連絡先

TEL : 054-264-5444 FAX : 054-264-5444

キーワード 地域福祉, コミュニティワーク, 支え合い,
地域包括ケアシステム, 居場所 (コミュニティサロン),
地域共生社会



私たちが暮らす地域社会は、少子高齢・人口減少社会が進展する中で、共同体機能が低下し、地域課題を解決する力が脆弱になりつつあります。加えて、世帯構成の変化により、家族機能も低下しており、これまでの制度・政策や公的サービス、既存の仕組みだけでは対応しきれない課題が顕在化してきています。

その解決に向け、地域においては新たな仕組みづくりを目指し、住民主体の活動（生活支援、居場所など）や他分野（まちおこし、交通、農林水産業、防災など）との連携・協働が取り組まれてきています。

私たちの生活基盤として地域が持続可能であるために、それら仕組みが継続して機能し続けていくための支援体制について検討しています。



女性活躍のための制約人材マネジメント



経営情報学科 国保 祥子

● 連絡先

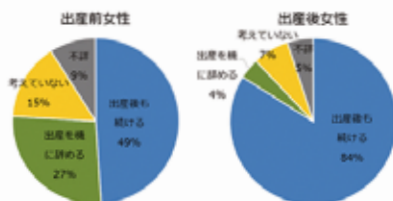
E-Mail : akokubo@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード 女性活躍, 女性管理職の育成, 制約人材, ソーシャル・イノベーション, ソーシャル・ビジネス, 組織マネジメント, 組織行動, 育休プチMBA, 経営学



経営学の観点から、女性が活躍するための職場づくりや組織のマネジメントについて研究している。企業における女性の活躍は日本は他国に比べて著しく後れを取っているが、大きな課題は、出産・育児と両立しながら就業を継続することが難しいというものである。その原因は、女性個人の就労意欲は高いにも関わらず、長時間労働を評価する組織文化等の職場の「働き方」の問題であることが明らかになっている。優秀であるにも拘らず、職場環境が原因で育児と業務責任を両立させる自信(効力予期)を持たない女性は、適応するために意欲を下方修正したり離職したりする。しかしながら、育児休業期間を利用した経営能力開発トレーニング「育休プチMBA」での実践を通じて、①女性の意識・態度・行動変容、②管理職の意識・態度・行動変容、③この2つを支える職場環境や人事制度の整備、の3点によってこの経営課題は解決されることが明らかになりつつある。なお研究成果の社会還元を目的として株式会社ワークシフト研究所(静岡県立大学認定ベンチャー)を2015年に立ち上げた。

有職・有配偶者・正社員で出産の意思がある20～34歳の女性の就業継続意欲



出所: 慶応義塾大学経済学部経済統計学研究室「第1回2015年度経営能力開発研修の成果」3



育休プチMBAの様子

アピールポイント

・女性従業員向けの能力開発、意識変革トレーニングの提供・管理職向けのマネジメント・能力トレーニング・女性が活躍できる職場づくりのための組織コンサルティング

人口減少時代の地方自治制度



経営情報学科

小西 敦

(本研究内容についてご興味のある方は、地域・産学連携推進室までご連絡ください。)
TEL : 054-264-5124 E-Mail : renkei@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

地方自治法, 人口減少, 地方行財政制度, 市, 町村, 指定都市, 要件



市になるために必要な人口は何人でしょうか？

現在の地方自治法8条1項の基準では、「5万人」です。

ところが、下図で示されているように、「2020年国勢調査速報値」によれば、人口3万～5万未満の市が178、3万未満の市が112と合計290もあり、全793市（東京23区を1市としてカウント）の3分の1以上が、この基準を満たしていません。

これはなぜでしょうか？

実は、地方自治法8条1項は、「市となるべき普通地方公共団体は、・・・要件を具えていなければならない」と規定し、この規定は、「市となるとき」の要件を定め、「市である」要件を定めてはいない、と解されています。

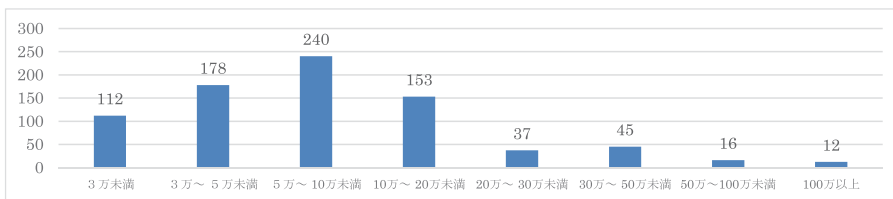
指定都市については、どうでしょうか？

静岡市の人口は、「2020年国勢調査速報値」で、69万3,759人となり、指定都市になるときに目安とされた70万人を割り込みました。ただし、指定都市については、「政令で指定する人口50万以上の市」（地方自治法252条の19）とされていますので、少なくとも、法律上は、当面、問題はなさそうです。

しかしながら、上記の市の要件のように、人口減少社会において、その適否を考えなければいけない地方行財政度は、いろいろありそうです。

例えば、そもそも、市や町村の区分の意味はどのようなもののでしょうか？

こうしたことを、日々、研究しています（下記の著作・論文をご参照ください）。



アピールポイント

『地方自治法改正史』信山社、全704頁、2014年
「市の要件規定の意義—規定の変遷とその適用状況から」『行政法研究』28号1-89頁、2019年
「市と町：効果のちがいは何か」『政策科学』27巻3号29～47頁、2020年

人工知能による言語獲得



経営情報学科

相良 陸成

●連絡先

TEL : 054-264-5436

E-Mail : sagara@u-shizuoka-ken.ac.jp

●ホームページ

<https://rikunari.com/>

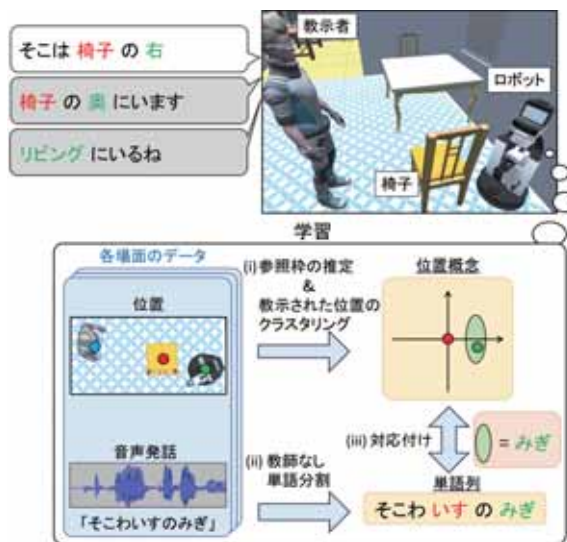
キーワード

人工知能, 言語獲得, 機械学習, 確率的生成モデル, 教師なし学習, 構成論的アプローチ



ChatGPTに代表される近年の人工知能は、人間らしい高度な対話が可能です。しかしこのような人工知能は、人間が一生かかっても読み切れない大量のテキストデータを用いることで実現しており、人間とは言語を扱う仕組みが異なります。

当研究室では、人間が言語を扱う仕組みを知るために、人間と同じ条件で言語を獲得可能な人工知能の仕組みについて研究しています。図に示すのは、人間の赤ちゃんのように一切の言葉とその意味（概念）を知らないロボットに話しかけ、単語と意味を学習させる研究です。このロボットは少量のデータから、(i)環境からの概念の獲得、(ii)発話からの単語の切り出し、(iii)単語と概念の対応付けを同時に学習することで、新しい言葉とその意味を獲得します。学習していく様子を観察できる「動く」仕組みを作ることにより、人間が言語を学習する仕組みに関する示唆を得たいと考えています。



アピールポイント

本研究はICTイノベーション研究センター活動としても取り組んでいます。

ガバナンスのハイブリッド化：日本型ガバナンスによる米国型の一部導入



経営情報学科 竹下 誠二郎

●連絡先 TEL：054-264-5423 FAX：054-264-5423

キーワード

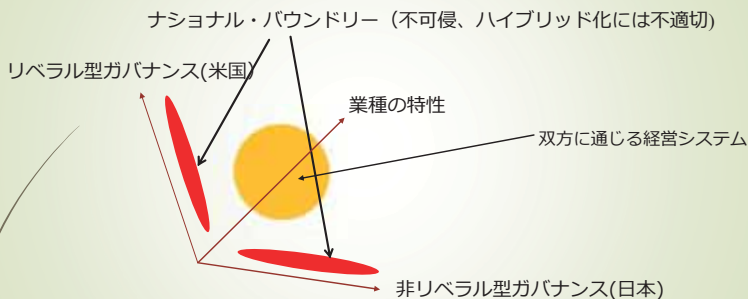
ハイブリッド、ガバナンス、日本型、非リベラル、米国型、リベラル

米国型の単一モデルは構造的・文化的要素を押し切れると勘違いしましたが、逆に日本では構造的・文化的要素への固執が転換・飛躍の障壁となっています。競合する資本主義の中で組織は多角性を競い合った方が健全です。それ故、双方の長所・短所を理解してハイブリッド化することが必要となるのではないのでしょうか？

ハイブリッドの可能性を業種・業態の類似性から探るとともに、ハイブリッドが可能でない「ナショナル・バウンダリー」を定義することによって、ハイブリッド化の領域をより明確にしようと思っています。これは日米の企業犯罪などに表れる文化的・商慣習的側面など、外部圧力では変化しない領域を研究・検証して行おうとしています。（この研究は英・仏の研究者と共同で行っています。）

これにより、ハイブリッド化が可能な領域、そして不可侵の領域が明確になり、他ガバナンスの一部導入の可能性を追求することが可能になると考えています。

ナショナル・バウンダリー(国の領域)の定義



静岡県立大学 経営情報学部

アピールポイント

- ・米国型ガバナンスと日本型ガバナンスは必ずしも対立するものではない
- ・双方の長所・短所、そしてハイブリッド化が可能な領域と不可能な領域を理解することが必要
- ・ハイブリッド化により、他ガバナンスの一部導入が可能となり、生産性・効率性が高められる

潜在意味解析モデルと計算機シミュレーションによる決定方略の推定と意思決定支援



経営情報学科

玉利 祐樹

● 連絡先

E-Mail : tamari@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

意思決定, 不確実性, 状況依存性, 過程追跡法, リスク認知, リスクコミュニケーション, 意思決定支援

本研究では、意思決定方略の定量的推定法を開発し、開発した手法を用いて推定された方略と意思決定の関係を定量的に検討し、消費者の意思決定支援に向けた処方的な利用方法の提案を目的としている。多肢多属性意思決定状況において、選択肢の数、属性の数、呈示方法、表現方法、時間的切迫といった種々様々な要因に依存して、走査される選択肢や属性の順序が変化し、そして選択結果が異なることが知られている。このような意思決定の状況依存的な側面を記述するために、様々な決定の仕方（決定方略）が見いだされてきた(Payne, et al, 1993)。一方で、決定方略の推定や分析および、その適用においては、定性的な記述に留まっていると言える。そこで、本研究では、過程追跡法で用いられる言語プロトコルデータ、眼球運動データや、描画データを対象に、潜在意味解析モデルや、決定方略の計算機シミュレーションを用いて、決定方略の推定および、推定された方略による意思決定の説明可能性の定量的な評価を行い、意思決定支援に向けた情報呈示法の提案を行う。



健康に関する意思決定

経営情報学科

野口 理子

●連絡先

TEL : 054-264-5422

キーワード

健康行動, 意思決定, 行動変容



医療技術の発達により平均寿命が向上した現代において、人々がより健康的に生活できる期間である健康寿命とのギャップを小さくすることが求められています。特に、まだ病気を発症していない段階の人々について、生活習慣の管理や改善による健康の維持・促進は重要です。

身近に取り組むことのできる方法として、健診の受診による健康管理や、運動の習慣等が挙げられます。例えば、健診を受けることは、生活習慣の見直しが必要となる項目の確認など、健康管理上の目安を得ることに繋がります。受診率向上を目指すために、「未受診の人々はどのような問題に直面しているのか」を明らかにし、「どのような対策を講じると受診するのか」を検討することが必要です。このような背景の下で、個人の特性と健康に関する意思決定の関係性について研究を行っています。

➤ 健康に関する選択における個人の特性



➤ 働き方、家族とのかかわり方など、生活の中心となる要因との関係



医療介護情報を用いた地域包括ケアサービス体制 評価指標の開発

経営情報イノベーション研究科

東野 定律

●連絡先 TEL: 054-264-5443 FAX: 054-264-5443
E-Mail: sadanori@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

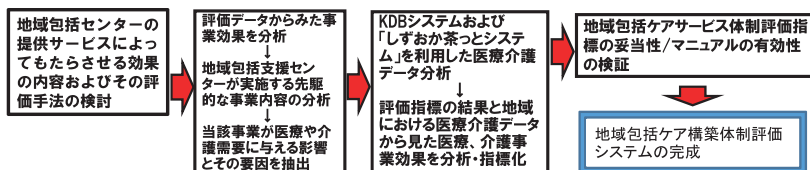
介護保険制度、地域包括ケアシステム、
医療介護マネジメント、ヘルスデータサイエンス



心身の状態が悪化した場合でも、住み慣れた地域において生活を継続できるような仕組みである地域包括ケアシステムでは、要介護者の地域生活は、介護だけでなく、生活の前提となる住まいと自立的なくらしのための生活支援や社会参加の機会が確保され、必要に応じて専門職による医療、看護、介護、リハビリテーション、保健・福祉サービスなど多様なサービスや支援が必要になる。

本研究の目的は、地域包括ケアシステムの進捗状況を明らかにし、第一に、地域の医療、介護サービス利用者の心身の状態と提供された医療、介護サービス量に関するマクロ的なデータを経時的に収集・分析し、当該圏域で進められている事業が医療や介護需要に与える影響について明らかにすること。第二に、地域包括ケアシステム下で提供されている医療や介護、生活支援サービス事業効果を評価す地域包括ケアシステム体制評価指標を開発し、その事業効果や事業の適正化を検証することである。

図 研究プロセス



公共政策における新潮流：デジタルトランスフォーメーション（DX）とオープンな政策形成



経営情報学科

松岡 清志

●連絡先

E-Mail : matsukiyo@u-shizuoka-ken.ac.jp

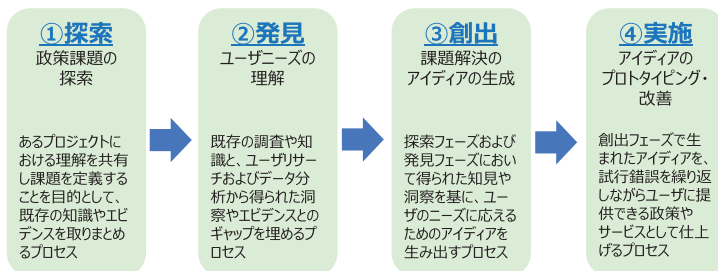
キーワード デジタルトランスフォーメーション（DX）、ICT、データ活用、デザイン思考、公共政策、行政サービス、業務改革、ユーザ中心、協働



少子高齢化、国際化をはじめとする社会構造の変化に伴い、国民/住民のニーズは複雑化、多様化し、政府および自治体はこれらのニーズに適時適切に応えることがこれまで以上に求められるようになっていきます。一方で、労働人口の減少および財政難に伴い、「担い手」としての公務員数を増やすことは困難になりつつあります。このような状況において、デジタル技術を活用して業務の効率化および行政サービスの質を向上させるデジタルトランスフォーメーション（DX）の必要性が高まり、先行的な取組が行われているところです。

デジタルトランスフォーメーションは、単純に現在の業務のITへの置き換えに留まりません。真に必要なデジタル（Digital）技術を見極め、関連するデータ（Data）を適切に使い、国民/住民に加え職員をも含むユーザのニーズを中心に据え、政策およびサービスを創出するデザイン（Design）思考を適用する、3つの「D」の視点が重要です。この3つの「D」の組み合わせによるデジタルトランスフォーメーションをオープンな政策形成プロセスを通じて実現する方策について、具体的な事例と理論との橋渡しを常に心がけて研究しています。

オープンな政策形成における4つのフェーズ



（出典）英国政府ウェブサイトGOV.UK内、Open Policy Making Toolkitを基に作成

経営情報学部

アピールポイント

国、自治体におけるデジタルトランスフォーメーションに関する政策動向や事例に関する知見、および先進的な取組推進の中心人物とのネットワークを有しています。

オープンデータとSNS解析による静岡県観光リソース活用支援技術の研究

経営情報学科 武藤 伸明

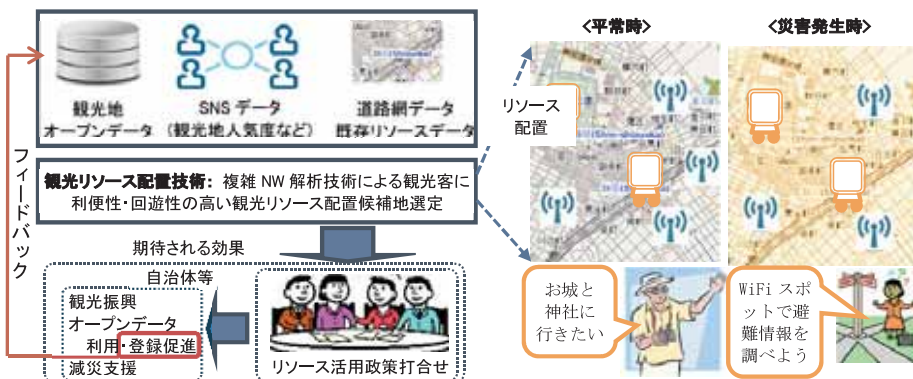
●連絡先 TEL : 054-264-5242

キーワード

観光リソース, オープンデータ, 施設配置, 組合せ最適化, 社会ネットワーク分析, 複雑ネットワーク



本研究は、観光客の利便性と回遊性を向上させる観光リソースの配置候補地を選定する技術確立し、観光振興計画策定支援、オープンデータ利用促進などを実現する汎用プラットフォーム技術の構築を目的とする。具体的には、観光地オープンデータ、SNSデータ、道路網データなどを入力とし、複雑ネットワーク解析技術を用いて、デジタルサイネージ、Wi-Fiスポットなどの観光リソースの適切な配置候補地を選定する技術確立し、実際にWi-Fiスポットを静岡市に配置して有効性を確認する実証実験を行う。本研究は、地方自治体、地域通信事業会社、地元産業などでの観光リソース活用政策・計画の策定を支援することにより、観光における集客力増強を実現と、オープンデータの利用と登録を促進する。



アピールポイント

本研究はICTイノベーション研究センター活動として取り組んでいます。

防災情報システム



経営情報学科 湯瀬 裕昭

●連絡先 TEL: 054-264-5448 FAX: 054-264-5448

キーワード

BCP, 防災情報システム, 安否情報システム,
防災支援アプリケーション, 南海トラフ巨大地震



東海地震等の巨大災害に備えて、1999年から大学の安否情報システムの開発に取り組んでいる。現在は防災情報システム関連として下記の4つの研究を行っている。

(1) 安否情報システム

大規模災害時には安否確認が不可欠であり、対災害性の高い安否情報システムが求められている。新たに開発したクラウド型安否情報システムの運用と改良を行っている。

(2) 災害情報共有システム

東海地震ドットネットシステムを開発し、実運用することにより災害ボランティア関係者の情報共有の促進を目指している。

(3) 防災支援アプリケーション

南海トラフ巨大地震などの被害を軽減するため、近年急激に普及しているスマートフォン向けの防災支援アプリケーションを開発している。

(4) 自立型防災通信ステーション

太陽電池による自立型電源と衛星インターネットを利用した防災通信ステーションを開発している。



自立型防災通信ステーション

アピールポイント

本研究はICTイノベーション研究センター活動としても取り組んでいます。

経営情報システムとコンテンツデザイン



経営情報学科 渡邊 貴之

- 連絡先 TEL : 054-264-5433 FAX : 054-264-5433
- ホームページ <https://pana4405.u-shizuoka-ken.ac.jp>

キーワード 経営情報システム, 計算機シミュレーション, 計算機システム・ネットワーク, 観光と情報, メディアと情報, コンテンツデザイン



最新の情報環境をツールとして、企業の経営・生産活動や自治体・公共施設の運営、地域活性化などに役立てる方策を考える研究を行っている。ツールを使って取得したデータを分析したり、また必要とするツールが世の中に無ければ、新しい発想のシステムを自らプロデュースすることを行う。また、システムという入れ物の魂となるテキスト・画像・音声・映像といった魅力あるコンテンツの設計・情報表現についても取り組んでいる。具体的な活動の一部を下記に示す。

- 静岡県立美術館と文化施設におけるICTの利活用について長期にわたり連携して研究を行っている。
- 自治体や旅行事業者、交通事業者等と共同で、ICTを活用した観光行動調査システムの構築と収集したデータの分析を行っている。
- 平時には観光情報などを配信し、非常時には緊急情報や避難情報を配信する観光・防災サイネージの研究開発を民間事業者と連携して進めている。
- 組織における動画メディア活用を実践し、それらに関わる知見を深めるために、静岡県立大学の動画広報サイト「静岡県立大学テレビ」を運営している。



アピールポイント

本研究はICTイノベーション研究センター活動として取り組んでいます。

重症心身障がい児の看護ケアに伴う生体反応を非接触で測定できるデバイスの開発

看護学科（小児看護学）

池田 麻左子

● 連絡先

TEL：054-202-2660

E-Mail：m-ikeda@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード 重症心身障がい児，看護ケア，医療的ケア，看護の質，言語的コミュニケーション（意思表示），生体反応，非接触デバイス



重症心身障がい児（以後、重症児）には、快や不快などの感情や思いを言葉で他者に伝える難しさ、筋緊張や皮膚の弱さ、刺激に対する敏感さなどの個性があります。重症児に関わる看護師は、児の表情や動作を察知し、重症児にとって安全・安楽な看護ケア常に意識した実施をしています。一方で、経験の乏しさやスキルの未熟さから、不安や難しさを感じることがあります。私は、小児看護専門看護師として重症児看護を実践してきました。重症児の安全・安楽を重視し、様々な看護師が安心して看護ケアを実施するために、これまでの経験を活かしたいと考えました。看護ケアに伴う重症児の呼吸や心拍数の変化を、直接身体に触れずに測定できるデバイスを用いることで重症児の安楽な状態を予測し、安全かつ安心できる看護ケアの実施に役立てるための研究に取り組んでいます。

アピールポイント

重症児との関わりや看護について、小児看護雑誌に複数の投稿をしています。重症児のよりよいケアを一緒に考えませんか。

終末期高齢者の在宅での看取りの実現に向けた看護に関する研究

看護学科

植田 春美

●連絡先

TEL：054-202-2942

E-Mail：edarumi@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

終末期高齢者，在宅での看取り，退院支援



我が国の高齢者の約半数は、自宅で最期を迎えたいと回答しています。一方で、2021年における65歳以上の者の死亡場所は66%が病院であり、自宅での死亡は16%にすぎません。自らが希望した場所で最期を迎えることは、望ましい死を迎える重要な要素とされています。しかし、実際には多くの高齢者が病院で死亡しており、希望と現実の乖離が生じています。そこで、高齢者の看取りの場を病院から自宅へと移行させる支援が必要だと考えています。そのためには、医療機関に入院となった終末期高齢者に対して、医療者が高齢者本人の意思を確認し、在宅での看取りを望むのならば、その実現に向けて支援することが必要です。この入院医療機関の支援において、看護の果たす役割は大きいと考え、在宅での看取りに向けた看護支援についての研究をすすめています。

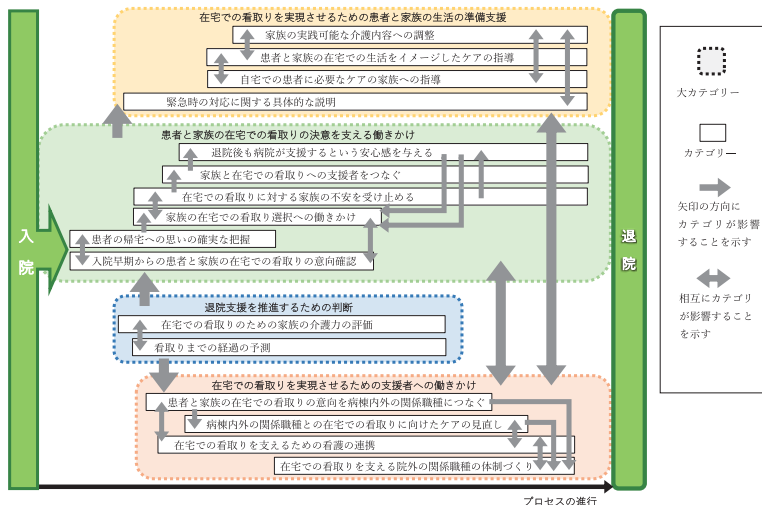


図1 終末期高齢者の在宅での看取りを目的とした病棟看護士の退院支援のプロセス

アピールポイント

誰もが最期まで自分らしく生きることを支える看護について、一緒に考えていきましょう。

ペリネイタル・ロスのケアに関する研究

看護学研究科（母性看護・助産学）
看護学科（母性看護学）

太田 尚子

●連絡先 TEL：054-202-2910 FAX：054-202-2910

キーワード ペリネイタル・ロス、死産、新生児死亡、死別、グリーフケア、セルフヘルプ・グループ、助産教育、教育プログラム、インストラクショナルデザイン



ペリネイタル・ロスとは、流産、死産、新生児死亡など、周産期の子どもの喪失をいう。ニーズに即したケアを構築するため、体験者である女性たちとの協働による研究。また、ケア提供者である看護師への教育、セルフヘルプ・グループの運営を中心とした実践活動など、教育、実践を統合したアプローチである。

当事者の声からケア・ニーズを明らかにした質的研究は、日本助産学会20周年記念論文優秀賞受賞(2006年)。2004年9月、セルフヘルプ・グループ「天使の保護者ルカの会」(聖路加看護大学看護実践開発研究センター内)を設立し、代表を務める。

死産・新生児死亡は、年間3万件と自殺よりも多く、母親やその家族に大きな悲嘆、時にはPTSD(外傷後ストレス障害)を引き起こすなど、母親や家族の精神的健康に及ぼす重大性からみても、おさなりにできない健康問題である。しかし、日本においては、隠蔽、子どもの存在の否定などの文化的背景により、これまで、入院中や退院後の生活において、母親は大きな苦悩を背負わされてきた。一方、看護師や助産師などのケア提供者への教育は、個人の努力に任せられている部分が大きく、教育体制は貧弱であると言わざるをえない。そのため看護師は、ケアに関する知識が十分でなく、教育・訓練の場も乏しいことから、母親を避ける、無意識に母親を傷つける状況が存在していた。以上のことから、体験者のニーズに即したケアの構築、看護師の教育などの課題に対して、以下の側面から研究を行っている。

1. ペリネイタル・ロスのグリーフケアの構築

1)入院中のグリーフケア

＊ケア・ニーズの分析

＊聖路加看護大学ペリネイタル・ロス研究会のメンバーの一人として、ケアに必要なキット(天使キット)や冊子を開発。

2)退院後のグリーフケア

＊セルフヘルプ・グループ「天使の保護者ルカの会」の設立と運営

2. 看護師への教育

＊看護師の教育ニーズの分析

＊インストラクショナルデザインを用いた看護教育プログラムの開発と評価

ペリネイタル・ロスに対するグリーフケアは、欧米においては1980年代から取り組まれてきた。しかしながら日本においては、ケア構築の途上にあり、ケアのガイドラインも存在していない。一方、ケア提供者向けの系統的な教育プログラムも、これまで、日本には存在していなかった。ケア内容を構築し、看護師の教育プログラムを開発することで、我が国のペリネイタル・ロスのケアを全国に普及していきたいと考えている。

- ・「母親のケア・ニーズに関する研究」新聞掲載(毎日新聞,2006.12.28)
- ・「天使の保護者ルカの会」新聞掲載(朝日新聞,2004.9.24、2004.10.3、2008.11.2)(毎日新聞,2007.1.24)(日本経済新聞,2006.6.28)
- ・「ケアに必要なキットと冊子の開発(共同研究)」新聞掲載(朝日新聞,2008.11.21)



<天使キット> 亡くなった赤ちゃんの思い出づくりのために使うボックス。市販では購入できない小さな赤ちゃんの着物やお布団、小冊子がセットになっている。ボックスには、写真、足型・手形、髪の毛、爪などの赤ちゃんの遺品を取るキットやメッセージカード、友人に知らせるときに使えるカード、以前に赤ちゃんを亡くした母親が手づくりしたぬいぐるみなどが入っている。

1. 「親になる」ことを支援する妊娠期からの助産ケアに関する研究

2. 女性と助産師との関係に関する現象学的研究

看護学科（母性看護学）
看護学研究科（助産学）

大和田 裕美

● 連絡先 TEL：054-202-2913
E-Mail：h-owada@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

妊娠期からの親支援，子育て支援，
女性－助産師関係，現象学的研究



【テーマ1】子育て支援活動を行う NP0 とともに、妊娠期から子育て期にある方を対象とした講座を開催しながら、「親になる」ことへの支援について研究しています。中でも、パートナーが妊娠期にある男性に対する支援は、母親となる女性をサポートするために必要な知識・技術の提供を目的としたものが多く、男性自身が「親になる」ことへの支援が十分になされているとは言えません。そこで、パートナーが妊娠期にある男性を母親のサポーターではなく、親になっていく存在ととらえた効果的な助産ケア方法の開発に向けて研究しています。

【テーマ2】女性と助産師との関係は、助産ケアを支えるものでありながら、当の女性や助産師にとってははっきりと自覚されないままに経験されています。そこで、女性と助産師との関係がどのようにして成り立ち、営まれているのかを現象学を手がかりに研究しています。

☆☆☆☆ ハッピーパパ マタニティ講座 ☆☆☆☆

～「家族を笑顔にするパパになる」～

ママは母親学級があるのに
パパは父親学級がない！
そんな声から生まれた
パパ中心・パパ目線の講座です

こんなこと話しましょう

- ★ パパとママのすれ違い
- ★ パパは具体的に何をしたらいいの？
- ★ 「赤ちゃん」ってどんな生き物？
- ★ 知っておきたい制度・支援
- ★ ママにとっての出産・母乳育児
- ★ パートナーとのスキンシップ

子育て中の親のプログラム「Nobody's Perfect」（完璧な親はいません）の
ファシリテーターで助産師のグループが講座の進行をして、パパを応援します！

パートナーが妊娠中の方などなくてもご参加いただけます

- ＊ 初産・経産は問いません。
- ＊ パパだけ参加大歓迎♪
- ＊ ママの参加もできます

講座に参加したパパたちの声

親になることについて、
不安や思いを共有できた

パパ同士の交流の場は
少ないので、意見交換の
いい機会だった

パパ・ママの思いの違いを
知り、夫婦でたくさん話して
いきたいと思えた

親になる自覚を持てた

アピール ポイント

カナダ発の親支援プログラム「Nobody's Perfect」認定ファシリテーターである助産師として、パパ向けマタニティ講座や未就学児の親を対象とした親支援講座を開催しています。

1. 看護技術の効果検証

2. 排便パターン分類フローチャートの開発

看護学科（基礎看護学）
看護学研究科（看護技術学） **加藤 京里**

●連絡先 TEL：054-202-2918
E-Mail：k.kato@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

看護技術，温罨法，冷罨法，排便



闘病中の患者は、不安や痛みに伴う交感神経活動の亢進によって、食事・睡眠・排泄などの基本的な日常生活行動をいつも通りに行うことが困難になります。看護師が行う温熱を用いたケアは、“温かさ”や“気持ちよさ”のみならず、患者がその人らしい生活を取り戻す、つまり食欲増進、睡眠の促進、便秘の改善などの効果が期待されています。

ストレス軽減の効果：

健康な成人を対象に温罨法*を実施した実験（江上2001，加藤2010）では、腰背部温罨法は自律神経のバランスを整えることが示唆されました。

リラックス効果：

閉経後の女性を対象に40℃と60℃で温罨法を実施した実験（加藤2011）では、40℃の後頸部温罨法は、交感神経の上昇を抑え副交感神経を亢進させることが示唆されました。

食欲・睡眠の促進効果：

入院患者を対象に後頸部温罨法を就寝前に実施した研究（加藤2012）では、患者から「痛みを忘れる」「食欲増進」などの語りがあり、睡眠調査票得点が上昇しました。

便秘症状緩和の効果：

排便困難を客観的指標から評価する「排便パターン分類フローチャート」の開発のため、研究チームで調査（加藤ほか2012，菱沼ほか2021）を継続しています。「便秘症状緩和のための温罨法 Q&A」は日本看護技術学会の HP で閲覧できます（<https://jsnas.jp/guideline/>）。

*注）温罨法：湿熱や乾熱による刺激を、主に皮膚表層に対して与える看護を意味します。以上で提示した研究では、蒸しタオルや市販の蒸気温熱シートを温罨法として使用しました。

アピールポイント

身体を“温める・冷やす”効果、ならびに“排便状況”の調査、に関心をお持ちの施設、企業のご連絡をお待ちします。

自己導尿に関するYouTube®動画の検討

看護学科（老年看護学）

佐藤 理乃

●連絡先 TEL：054-202-2658
E-Mail：rino.sato@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

間欠導尿，尿排出機能障害，排尿ケア



近年では、患者が健康に関する知識を得ることを目的にSNSを利用することが増えています。SNSの一つにYouTube®は存在し、医学的情報が発信されていますが、基準と矛盾する、誤解を招く情報が含まれている可能性もあります。これまでに、本邦において自己導尿動画について検証された研究はなく、更には自己導尿手技に関する学会主導のガイドラインや動画発信は存在しないため、正しい知識と矛盾する情報が伝わる可能性が高い事が考えられます。

我々の研究チームでは2020年5月までにアップロードされた自己導尿に関するYouTube®動画の実態を調査し、その特徴とニーズを明らかにしてきました。今後、2020年5月以降の動画を含め再度調査し、動画の特徴と患者のニーズを明らかにし、ニーズに沿った自己導尿の情報提供や、自己導尿指導の動画作成に寄与していきたいと考えています。



佐藤理乃，第29回日本排尿機能学会「多職種協働時代におけるCICのベストプラクティスを探る」2022

アピールポイント

患者さんが安全に正しい知識をもって間欠自己導尿を継続出来るための支援を、多職種で検討しています。一人でも多くの方々とこの問題を検討していきたいと考えております。

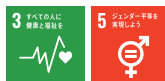
日本人女性の自死の社会的要因

看護学科（公衆衛生看護学） 佐藤 瑠美

- 連絡先 TEL：054-202-2657
E-Mail：ru.sato@u-shizuoka-ken.ac.jp
- ホームページ <https://site-1615963-550-1723.mystrikingly.com/>

キーワード

労働，自死，地域社会，マルクス



近年の気候変動による影響や新興感染症流行、外交的緊張の高まりを背景に人間の安全保障の問題は、全ての人びとの高い関心ごとといえるでしょう。これまで、「働くこと」の意味を再考すること、「地域社会とつながること」は伝統的な地域社会の在り方の視点から現代の課題について考えてきました。最近では、コロナ禍で増加に反転した女性の自死の急増を社会の脆弱性の顕れと捉え、その要因の一端を解明することで、人々の安寧な社会づくりに貢献したいと考えています。

著書

- 『3・11後の労働のデザインー表現と労働の関係性を探るー（ディスカヴァー ebook 選書）
ディスカヴァー・トゥエンティイワン、2022／双風舎、2014（単著）
- 『新たなコミュニティの創造ーグローバル化社会のなかでー』、時潮社、2018（単著）
- 『地域包括支援・総合相談事例集』、第一法規、2007（共著）



アピールポイント

2014年に刊行された『3・11後の労働のデザインー表現と労働の関係性を探るー』が、2022年に“ディスカヴァー ebook 選書”として、出版社ディスカヴァー・トゥエンティワンより出版されました。

コミュニケーション・スキルに関する研究

看護学科（基礎看護学）

管原 清子

●連絡先 TEL：054-202-2927
E-Mail：sugahara@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

コミュニケーション, コミュニケーション・スキル, アサーション



コミュニケーションは、社会の中で他者との関係を形成、維持するために必要なものであり、社会生活を営むために欠かせないものです。このコミュニケーションを円滑に行うために必要となるのが、コミュニケーション・スキルです。特に、看護の対象を理解し、対象との関係を構築しながら看護援助を行う看護師にとって、コミュニケーション・スキルは非常に重要なものです。

このコミュニケーション・スキルを学生時代にどう育てるのは、看護基礎教育に携わるものとして重要課題であります。現在、入学時からの卒業時までのコミュニケーション・スキルの特徴や成長、学年・経験による差などを調査しています。一部調査結果を提示いたします。

看護学部1年生と2年生のコミュニケーション・スキルの特徴

1年生と2年生の比較：ENDCOREs

		1年生		2年生	
		NS			
		平均	SD	平均	SD
管理系 コミュニケーション・スキル	自己統制	4.8	0.7	4.8	0.7
	関係調整	5.0	0.8	4.9	0.8
表出系 コミュニケーション・スキル	表現力	4.1	0.8	4.1	1.0
	自己主張	3.9	0.9	3.9	1.0
反応系 コミュニケーション・スキル	他者受容	5.5	0.9	5.5	0.9
	解読力	5.1	0.8	5.0	0.8

アピールポイント

看護の分野だけでなく広く色々な分野におけるコミュニケーション・スキルに興味があります。コミュニケーション・スキル向上にむけて研究と一緒に取り組んでくださる方大歓迎です。職場や学校におけるコミュニケーション・スキルの測定や評価に協力できます。コミュニケーションに関する講師依頼もご相談ください。

脳卒中患者の夜間の呼吸状態安定化に向けた研究

看護学科（成人看護学）

鈴木 郁美

●連絡先

TEL：054-202-2943

キーワード

脳卒中, 脳血管障害, 睡眠呼吸障害, 再発予防, 非接触呼吸センサ



脳卒中患者は全国に112万人いると言われ再発も少なくありません。脳卒中の再発は初回に比べ重症化しやすく、脳卒中の再発予防への介入は看護の重要な項目として位置づけられています。脳卒中患者の看護に10年以上従事し、服薬自己管理や生活習慣病の改善に向けた取り組みなど、さまざまな再発予防に対する取り組みをおこなってきましたが、十分な結果であると言えず対応に苦慮してきました。

近年、夜間における低呼吸や無呼吸は、低酸素血症に伴う血圧の上昇が脳卒中の再発因子として指摘されています。臨床において患者の夜間の呼吸状態の把握は目視で観察する困難さに加え夜間の看護師のマンパワー不足から容易ではなく、脳卒中患者の夜間の呼吸状態の安定化に向けて、どのような看護介入が有効であるか十分に検討されていません。そこで、脳卒中患者の呼吸状態の安定化に向けた看護介入の有効性を検討する取り組みとして、夜間の呼吸状態を把握できるセンサを開発・有用性を確認する研究を行っています。

脳卒中患者の夜間の呼吸障害は急性期において指摘されていますが、慢性期では明らかになっていません。そこで非接触・非拘束で体動から1回の呼吸数・換気量を測定できる呼吸センサを用い脳卒中患者の夜間の呼吸状態を測定したところ、慢性期の脳卒中患者においても問題を生じていることが明らかとなりました。さらに検討を重ね、夜間の呼吸状態の安定化に向けた脳卒中患者の看護に貢献できる取り組みを続けていきたいと考えています。

呼吸に問題のない安定している体動



無呼吸が生じた体動



呼吸に問題のある体動量の変化

療養ベッドのマットレスの下にセンサを設置し、体動量の変化から呼吸状態が把握できる。慢性期の脳卒中患者においても無呼吸が生じていた。

**アピール
ポイント**

脳卒中患者の看護やリハビリテーション看護に関する研究に取り組んでいます。

学校メンタルヘルスリテラシー教育プログラムに関する研究

看護学科（精神看護学）
看護学研究科（精神保健看護学）

篁 宗一

● 連絡先 TEL：054-202-2649（直通）
E-Mail：takamura@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード 学校メンタルヘルス、メンタルヘルスリテラシー、教育、早期介入、予防、思春期、こころの健康、こころの問題、精神疾患



近年、メンタルヘルスによる影響が社会的に大きくなり、2022年4月から「精神疾患の予防と回復」の授業が高等学校で開始されました。

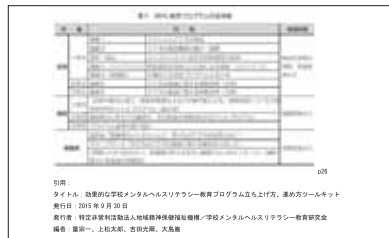
思春期にあたる中学生や高校生の時期は、ちょうど精神障がい発症の好発期にあたり、「こころの病気」の起きる可能性は、「児童期」からストレスや悩みが多くなる「思春期」にかけて大きくなってきます。

思春期の生徒を支援する教育現場では、本来、一次予防に焦点を当てて、メンタルヘルスに関する知識の増進をはかる必要があります。

教育の場において、メンタルヘルスリテラシー教育を体系的に実施することは、精神疾患に対する正しい知識をつけ、精神的な不調が発生した場合に適切に援助を求めることができるという精神疾患の予防・早期発見につながり、大きな意義があるといえます。

私たちは、思春期に差し掛かった中学生を対象に、効果が上がる学校メンタルヘルスリテラシー教育プログラムを開発し、その有効性と成果を明らかにしてきました。

同時に、効果的なメンタルヘルスリテラシー教育プログラムを中学校・高等学校、さらには小学校などと連携して、実施・普及する取り組みを進めてきました。



ABEMA Prime 2022年9月1日放送「心の病気どう教育？メンタルヘルスリテラシーを学ぶ」に出演した。

アピールポイント

不登校やそれにつながるひきこもりの問題、またいわゆる拒食症・過食症とよばれる「摂食障害」の増加など、思春期における「こころの健康＝メンタルヘルス」の問題に直面する先生方も多いのではないだろうか。
思春期の子どもたちが自らこころの健康について学び、障害者との交流も含めて幅広く人間形成に寄ることができるような教育プログラムになっています。

非接触型デバイスによる呼吸測定とアセスメントの向上に関する研究



看護学科（成人看護学）

中岡 正昭

● 連絡先 TEL：054-202-2947

キーワード

看護，救急，集中治療，急性期，呼吸回数，換気測定

救急医療や急性期医療に特化した問題や課題に対する研究をしています。看護師として10年以上の経験と急性・重症専門看護師として救急医療・急性期医療に従事した経験をもとに、現在発生している医療問題に焦点を当てた研究を行なっています。

昨年度から新型コロナウイルス感染症の渦により医療資源や医療従事者の疲弊が叫ばれています。病院で入院している患者さんを始め、医療施設以外での療養を余儀なくされている患者さんも身体状態を把握するためのバイタルサインを測定することは必須でありながら、医療者の負担は大きくなっています。特に新型コロナウイルス感染症は呼吸症状にあり、呼吸状態のアセスメントに必要な酸素化と換気状況の把握は必須となる。そのため酸素化と換気状況を把握するために非接触かつ非侵襲であり、簡易的にモニタリングを可能とするデバイスが必要であると考えました。この開発したデバイスの妥当性・有用性を確認し、臨床にて看護師がアセスメントできるか検討を行なっていきたいと考えています。

その他の研究では近年、筋電気刺激（EMS）が筋力低下に効果を示すとの報告がされています。集中治療室に入室する急性期にある患者に対しても、EMSを用いることでより効果的なリハビリテーションができるか検討しています。

アピールポイント

救急医療や急性期医療に特化した問題や課題に対する研究をしています。

教員の助産師力を地域に発信！



看護学科（母性看護学）
看護学研究科（助産学）

中川 有加

● 連絡先 TEL：054-202-2949

キーワード Women-centered Care, プレコンセプションケア, 子育て支援, 女性の Quality of life の向上, 性教育, 地域支援, 更年期ケア, 看護師・助産師教育



助産師は、妊娠・分娩・産褥にのみ関与する専門職ではなく、女性の一生に関わる職業である。近年では、女性の健康に対する社会的・文化的・政治的な影響を重視し、女性の総合的な Well-being を目標とする女性を中心としたケア（以下 Women centered care とする）を基礎概念として教育が進められている。女性が身体的、精神的、および社会的な健康を高めていくために Women-centered Care の「尊重」、「安全」、「意思決定」、「エンパワー」という原則に則り、助産師として臨床経験豊富な母性看護学領域の教員が、それぞれの得意分野を活かして地域の女性を支援する試みを進めていく。その試みとして、「Women's サロン in 県大」を継続的に運営していく。看護学部として、地域との断続的な交流が必要である。教員が交代制で女性のライフステージにおける健康問題に着目し、プレコンセプションケア、妊娠産褥婦および子育て支援、DV や虐待予防などのイベントや個別相談を実施していくことで、静岡県在住の女性が安心して生活できることにつながると考える。また、看護学部の4年生や助産学分野の大学院生も参加することで地域に貢献できる医療従事者の学びの機会とする。昨今の現状から、オンラインでの実施も考えている。今後は、他領域との教員と協働でサロンの運営を検討していく。



学生による性教育の実際



アピールポイント

地域での女性の健康相談、子育て支援の取り組み、プレコンセプションケアの啓発活動、性教育の実施などご要望に対応していきたい。経験豊富な教員の助産師力で地域貢献していきたいと考えています。

更年期女性の更年期の捉え方および更年期の健康に関する研究

看護学部（母性看護学）
看護学研究科（助産学）

永谷 実穂

●連絡先 TEL：054-202-2668
E-Mail：nagatani@u-shizuoka-ken.ac.jp

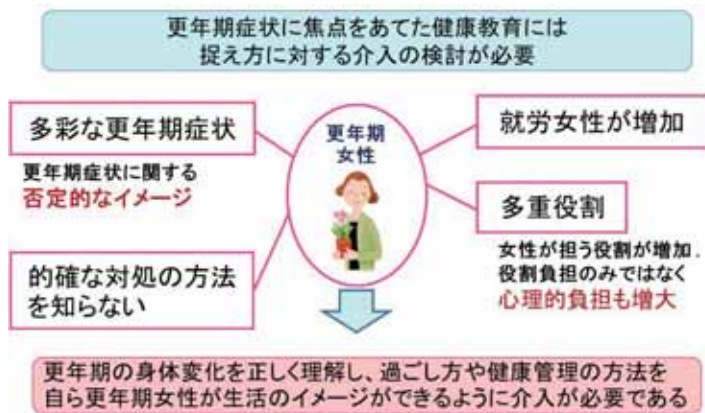
キーワード

更年期症状、就労更年期女性、健康教育、
更年期の捉え方



女性のライフサイクルにおいて、ホルモン環境が変化する時期があり特に更年期の女性はホルモンバランスの崩れがもたらす身体症状が大きく出現する時期です。これらのことは、以前よりも周知されてきていますが、ほとんどの女性は初潮教育の時のみに女性の体の変化の教育を受けるのみです。そのため、女性の一生を通しての体の変化を知る機会が少ない状況です。特に、更年期以降の女性の体の変化についての知識はテレビ、雑誌、インターネットの情報から得ることはできるが正しい知識を得ている女性は少ないです。

また、最近では女性の社会進出がめざましく生活習慣の乱れや仕事にまつわるストレスも多く、その上に更年期世代は自身の抱える家族のことなども原因となり、ホルモンバランスが崩れ自立神経失調症状が出現し体調不良をもたらしやすい状況です。このように様々な身体変化が生じている更年期女性の健康を考えていく1つとして、更年期症状が更年期の捉え方や環境に影響されているかについて研究しています。さらに、更年期女性に対しては女性ホルモンに関する知識の提供を行い、更年期の捉え方に考慮した健康教育の方法の開発を検討しています。健康教育では、自律神経の安定をもたらすために自宅で手軽にできるリラクゼーション方法を取り入れるようにしています。



アピール ポイント

小鹿キャンパス内で女性健康相談室を月に1回開催し、最近では奇数月に更年期女性を対象としたプチ講座を取り入れた座談会を行っています。ご希望の方は、ご連絡ください。

先天性疾患をもつ子どもを妊娠した母親に関する研究

看護学科（母性看護学）

長屋 和美

● 連絡先

TEL：054-202-2914

E-Mail：nagaya_kazumi@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

先天性疾患，出生前診断，子育て支援



健やか親子21(第二次)では、すべての子どもが健やかに育つ社会を目標に、切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策や子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくりが基盤課題とされています。このような母子保健関連施策は、低出生体重で生まれた子ども、先天性疾患をもつ子ども、発達支援の必要な子どもも対象であり、親やきょうだいに対する社会的な支援も重要な課題と考えます。助産師の立場から、母子に対するケアを充実させるための研究や、地域システムの構築に向けた調査を行うことを考えています。妊娠期～産褥期～子育て期および胎児期～新生児期～幼児期にわたる継続的な健康管理と支援の必要性を認識し、研究に取り組んでいきたいと考えています。

ICT を活用した高齢者のトイレ排泄の自立支援の研究

看護学科（老後看護学）

看護学研究科（老後看護学）

成瀬 早苗

●連絡先

TEL：054-202-2948

E-Mail：s-naruse@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

高齢者，トイレ排泄，自立支援，ICT



高齢者は、尿失禁や便失禁、便秘、排尿困難などの排泄障害の発症頻度はきわめて高いといわれており、その原因として、排泄機能の障害だけでなく、脳血管疾患による後遺症や筋力の低下、認知症などによって日常生活動作が十分に行えなくなることがリスクファクターとしてあげられている。排泄は、人間にとって欠かせない生理的活動であり、健康のバロメーターともなる。トイレ空間は、気温差や怒責などで脳疾患や心疾患を誘発する場所でもあり、閉じられた空間で生じた問題を早くに把握することが肝要である。しかし、トイレ排泄ケアは、プライバシーの問題を含むこと、介護者の時間を有することの負担などがあり、つきっきりで情報を得ることが困難な現状がある。そこで、トイレの排泄の情報を把握し、自立に向けた支援を検討するため、ICT を活用した研究に取り組んでいる。

タイプ1		コロコロ便	米の飯のよう固くコロコロしたおちしやたまりの便、ワザヤの糞のような便	便秘傾向
タイプ2		かたい便	固くかたまったおちし便	便秘傾向
タイプ3		ややかたい便	米粒が少なく表面にひび割れのある便	便秘傾向
タイプ4		硬便	表面が乾めらさでやわらかい、表面にひび割れのようなひびくを認める	便秘傾向
タイプ5		やややわらかい便	米粒が多く表面にやわらかい便、ほっこりとした潤いのあるやわらかい便	便秘傾向
タイプ6		軟便	米粒の少ないやわらかい便、表面がほぐれておちしやたまりやわらかい便	下痢傾向
タイプ7		水様便	かたまりのないおちしやたまり	下痢傾向

※ 図 5-19 プリストル便性状スケール



出典 北川公子他、老年看護学第9版、医学書院、2020、p.169

アピールポイント

ICT を活用したトイレ排泄ケアの実証検証に参加する施設等を募集します。一緒に高齢者のトイレ排泄ケアの自立に向けて考えてみませんか。

がん療養者とその家族への支援に関する研究

看護学科（成人看護学）

長谷部 美紀

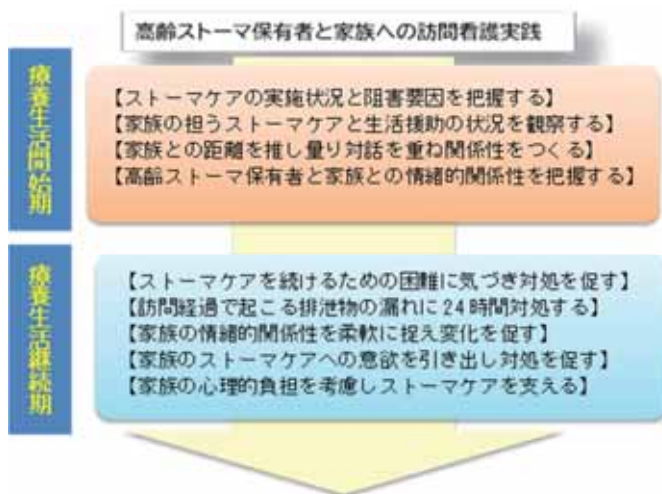
●連絡先 TEL：054-202-2942
E-Mail：m.hasebe@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

がん，療養生活，家族支援



日本では悪性新生物（以下がん）の罹患者数が年々増加し、一生のうち2人に1人が罹患すると推定されています。一方、治療の進歩によりがんの5年相対生存率は64%と上昇傾向にあり、高齢化を背景に手術を受ける高齢者が増えています。高齢者の手術に伴う問題のひとつに、大腸がんで人工肛門（以下ストーマ）造設後のストーマ自己管理に対する困難があります。高齢者がストーマをもつ生活に順応するためには家族の支援が重要ですが、家族も身体的・心理的・社会的な負担を抱えています。そこでストーマ造設後の高齢者とその家族が、生活へ順応していく過程での訪問看護師の支援に関する研究に取り組み、看護実践への示唆が得られました。現在は社会や家庭内の中心的役割を担う壮年期のがん療養者とその家族への支援に関する研究に取り組んでいます。



長谷部美紀，富安眞理：高齢ストーマ保有者とその家族の療養生活への順応過程を支える訪問看護実践，日本在宅ケア学会誌，26(1)：111-119（2022）より著者作成

アピールポイント

がん療養者とその家族への支援に関する研究に取り組んでいます。

脳血管疾患患者・家族介護者の早期在宅移行支援に関する研究

看護学部（成人看護学）
看護学研究科（成人看護学）

林 みよ子

●連絡先 E-Mail : m.hayashi@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

脳血管疾患, 家族介護者, 在宅移行支援, 早期介入

脳血管疾患は、突然に発症して麻痺などの機能障害を残す病気です。機能を回復するためには長期的なリハビリテーションが必要ですが、近年の病院の急性期化や在宅移行推進という国家施策により、こういった方の入院期間もかなり短く、入院後早い時期から退院に向けた準備が開始されます。

しかし、突然後遺症を患った患者もその家族も、まず変化した状態や状況を受け入れなければならないという苦悩に直面する中で、患者は日常生活行動の自立のための訓練、家族は介護スキルの獲得や自宅環境の整備、サポートの体制づくりなどに取り組まなければならない、在宅療養に向けた準備にはかなり時間がかかります。そこで、脳血管疾患患者とその家族の望む生活を実現するために、発症後早期から行う必要のある効果的な看護援助について研究しています。

アピールポイント

脳血管疾患患者とその家族の人生を支える看護の実現に取り組んでいます。

周産期防災と事業継続計画

看護学部（母性看護学）
看護学研究科（助産学）

福島 恭子

●連絡先 TEL：054-202-2912

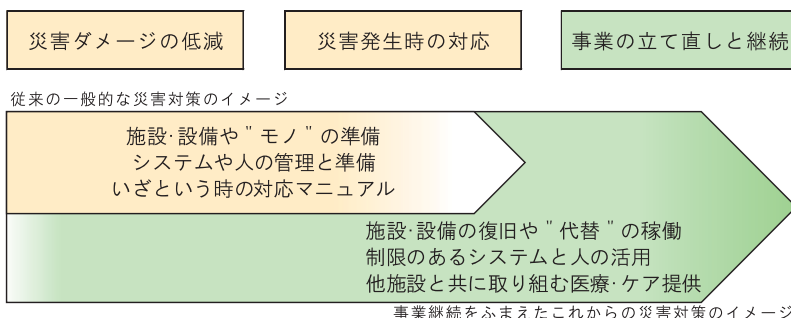
キーワード

周産期防災，事業継続計画，助産師教育，社会教育，
院内助産システム，看護管理，医療安全



安心して子どもを産み育てられる環境の整備は、少子高齢社会において継続的に取り組むべき課題のひとつです。母子ケアの専門家である助産師の育成、新しい家族のスタートとなる病院・診療所等・助産所等における安全対策の拡充、あるいは出産・育児の主役となる女性とその家族のエンパワメントなど多様な視点から、安心安全な出産環境整備のための基盤づくりに関する教育・研究活動を行っています。

自然災害発生リスクが高まる中、災害時の妊産婦・乳児への医療・ケア提供への備えについて検討することは、地域周産期医療の課題となっています。特に、日本の年間総出生の約半数を担う診療所・助産所の事業継続をふまえた災害対策整備・促進は、地域の母子の生命に直結する重要なテーマであるといえます。



アピールポイント

災害発生時にも妊産婦・乳児へのケアを途絶させないよう、地域で母子を支える産科診療所・助産所の事業継続計画（＝BCP）をふまえた災害対策推進に取り組むたいと考えております。

ドメスティック・バイオレンス（DV）及び子ども虐待と被害を受けた母子の回復支援に関する研究



看護学部（母性看護学）
看護学研究科（助産学） **藤田 景子**

●連絡先 TEL：054-202-2911

キーワード ドメスティック・バイオレンス, デートDV, 子ども虐待, 性暴力被害者支援, 子育て支援, 女性の健康, 助産外来, 院内助産

ドメスティック・バイオレンス(DV)とは…身体的な暴力に限らず、馬鹿にされる、無視されるといった精神的な暴力、友人や知人との付き合いを制限されるといった社会的暴力などの暴力を用いて、相手をコントロールすることを言います(パワーアンドコントロール)。

【研究着手の背景】

1. DVによる女性への影響：身体的な暴力による怪我にとどまらず、高血圧や糖尿病、心臓血管系の身体的健康障害、睡眠障害や不安、うつ病といった精神的健康障害と関連しています。(Wathen & Macmillan, 2013; WHO, 2013)。
2. DVによる子どもへの影響：子どもの問題行動、多動、不安、学習困難などの比率が著しく高いことが明らかになっています。(Levendosky, Bogat, & Martinez-Torteya, 2013)。また、DVは、子ども虐待にあたり(子ども虐待防止法)、DVのある家庭では、子どもへの虐待発生を70%増加させます(Tajima, 2000)。
3. DVの世代間連鎖という大きな社会問題が潜在化しています。(Fredland, McFarlane, Symes and so on., 2016)。

【研究テーマ】

- 1) 思春期からのDV予防啓発(中学・高校におけるデートDV予防教育)に関する研究
- 2) 妊娠～子育て期におけるDV被害者支援のための早期発見支援システムの構築に関する研究
- 3) DV被害を受けた母子の回復を促すプログラムの開発
- 4) 性暴力被害者支援看護師(SANE)の育成および他職種連携支援システム(SART)の構築に関する研究
- 5) 院内助産システム(助産外来・院内助産)の標準化に関する研究



アピールポイント

暴力を受けている女性や子ども等、いかなる状況にある母子が支援を求めやすい助産師、看護師のケアや支援方法の検討、母子の心身の回復を促すケアシステムを構築する研究に取り組んでいきたいと思っています。

消化管での栄養素とエネルギーセンシング機能並びに栄養素・水・電解質の吸収機構の解明

看護学科（基礎医学・保健学）

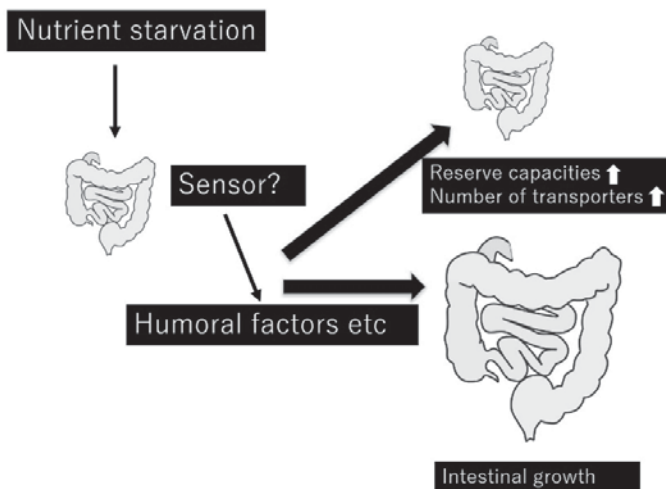
ヘムストック ウェンディ
(HEMPSTOCK, Wendy)

●連絡先 TEL: 054-264-5465
E-Mail: Whempstock@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

消化管, 水・電解質吸収, 栄養素センシング,
生理学, 栄養科学, 国際交流・国際協力, 食生活, 生物化学

1. これまでは「大腸癌細胞での葉酸の影響」や「大腸におけるタイト結合部タンパク質の役割の検討」などの基礎研究を行ってきました。生物は生きるためにエネルギー源である栄養素を腸管から選択的かつ効率的に吸収しています。生体内の内部環境のエネルギー状態、外環境である腸管管腔側は、エネルギー代謝・栄養素吸収機構などと連動し、生体を最適の状態に保つように調節されています。今後の研究は生体の栄養素センシングについて検討したいと思います。
2. 外国人の患者さんに対して英語で対応出来る看護師の育成を目指しています。生物化学の授業を英語と日本語で行い、基礎科学の教育にも貢献したいと思います。また、経済、産業などのグローバル化に伴い、国際経験や英語能力の重要性が高まっています。そのため、基礎科学研究だけでなく、臨床研究・国際交流・国際協力行動にも参加したいと思います。



アピールポイント

カナダ生まれ育ちで、日本で働いていますので、研究や教育を国際的な視野に立て見ます。

外来における循環器疾患の患者に対する看護実践に関する研究

看護学科（成人看護学）

星 有紀

・連絡先

TEL：054-202-2943

E-Mail：yhoshi@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

外来看護，外来患者，看護実践

外来看護に関する問題や課題について研究を行っています。

医療技術の進歩により、入院期間は減少し続けています。さらに、以前は入院を要した高度な医療も外来で行えるようになりました。特に、循環器疾患における心臓カテーテル治療をはじめとした低侵襲治療の進歩は著しく、日帰りでの治療を可能にしました。入院して行われていたケアが外来に移行したことにより、患者さんは自分自身で症状を管理する必要があります。患者さんにとって自己管理をするということは容易ではありません。

今後ますます、外来が担う機能はさらに多様化・高度化が進み、患者さんへの継続的なサポートの提供が求められます。外来機能の拡大により、外来看護師に求められる役割は多岐に渡り、看護が担う役割が重要視されている現在、問題や課題について一つずつ丁寧に検討し、外来看護に貢献できる取り組みを続けていきたいと考えています。

アピールポイント

外来での看護師経験を経て、外来看護に関する研究を行っています。

医療資源へのアクセシビリティと健康

看護学部（専門基礎領域）

堀 芽久美

●連絡先 E-Mail: mhori@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

医療資源へのアクセス, がん, 地域格差



がんの死亡率には地域差がありあます（図1）。この地域差の原因はさまざま指摘されていますが、医療施設へのアクセスのしやすさ（アクセシビリティ）も、がん死亡率の地域差に影響を与える要因として考えられます。住んでいる都道府県・市区町村や、さらに細かい住所の違いによって、自宅からもっとも近い医療施設までの距離、移動時間、移動費用は大きく異なることが想像できます。このような医療施設へのアクセスのしやすさの違いが、疾患の早期発見やその後の生存率・死亡率に影響していないでしょうか。私たちは、Geographic Information System: GIS という地理的な把握・分析を行うシステムを活用し、医療施設へのアクセスのしやすさと地域の死亡率や生存率、早期発見割合、医療費との関連を明らかにしていきます（図2）。

図1：がん死亡の地域差

*全国を100とした場合の標準化死亡比、100より大きいと全国より高い

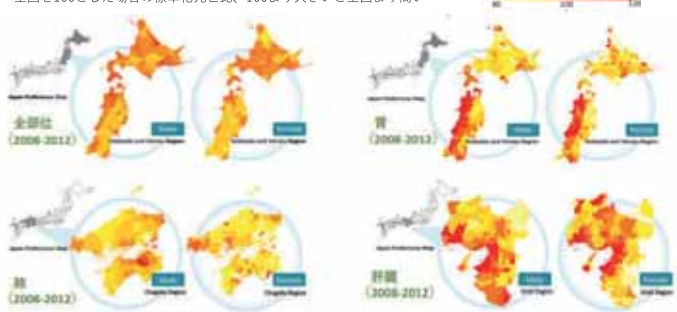


図2：アクセシビリティ



アピールポイント

自治体や医療施設が持つ保健・医療情報や公的統計から、住民、患者などの特性、疾患との関連について解析を行うことができます。協力自治体や医療機関を募集しています。

同じ地域に暮らす外国人と人々と共に外国人の健康や死に纏わる様々な問題を解決する方法を見出す研究

看護学部（成人看護学） 前野 真由美

- 連絡先 TEL：054-202-2678 FAX：054-202-2678
E-Mail：maeno@u-shizuoka-ken.ac.jp
- ホームページ <https://medforesi.jp>

キーワード

在住外国人，腰痛予防教室，健康チェック表，終末期ケア，お話しボランティア，医療通訳



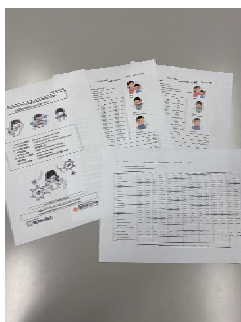
日本で働き、老いて、死を迎える外国人が増えています。地域に暮らす外国人と人々と一緒に、外国人の健康に関する研究を始めてから約20年になります。外国人、医療関係者、医療通訳者、外国人支援者と共に、外国人の健康や死に関する課題を話し合うワークショップは、10回以上になります。調査や話し合いを経て、開発した冊子は、①外国人のための腰痛予防教室（4か国語版）、② - 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策 - 8言語の健康チェック表、③6言語 在住外国人の終末期（もしものとき、エンディング）ケア「みせてお話し」ノートの3つです。外国人を対象に行った終末期ケアに関する調査では、ケアとして「祈り」を思い浮かべる方が多くいました。今後も、地域に暮らす外国人と人々と共に外国人の健康や死に関する研究を進めます。



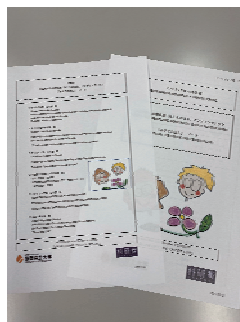
前野真由美他：外国人のための腰痛予防教室（4か国語版），2014.



COC「医療通訳の入り口としてお話しボランティア」第2回ワークショップ，2018.



前野真由美他：- 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策 - 8言語の健康チェック表，2020.



前野真由美他：6言語 在住外国人の終末期（もしものとき、エンディング）ケア「みせてお話し」ノート，2022.

アピールポイント

本学 HP に掲載されています。

① 8 言語の健康チェック表，2020.



② 6 言語 終末期ケア「みせてお話し」ノート，2022.



子どもの意思決定支援や看護師の倫理的苦悩に関する研究



看護学科（小児看護学）

丸山 始美

●連絡先

TEL：054-202-2915

E-Mail：maruyama@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

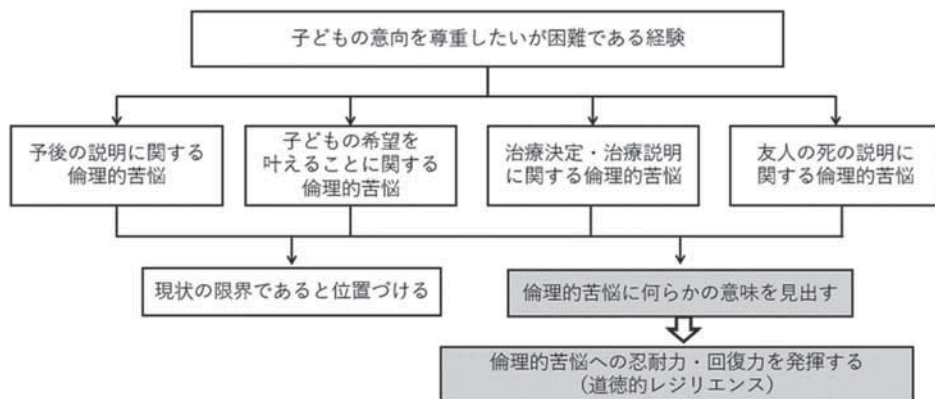
小児がん、看護師、ターミナル期、レジリエンス、倫理的苦悩、看護倫理、意思決定、ナラティブ



小児看護の医療現場で、子どもの意思決定支援の現状に苦悩を感じていました。そこで、看護師の意思決定支援や倫理的苦悩、看護師のレジリエンスの研究活動を行っています。

小児医療現場では、治療決定権は親権者である家族に委ねられることが多く、成長発達過程にあるため、子どもとともに意思決定することが難しい場合があります。人口動態統計上、小児がんは子どもの死因の上位であり、小児がんの子どもを対象とする看護師は、子ども参加型の意思決定支援をすることが難しく、倫理的苦悩を抱きやすいと考えます。看護師が倫理的苦悩を抱きつつ、看護実践をするには辛く苦しい状況から回復する力（道徳的レジリエンス）を持つ必要があると考えています。

現在は、倫理的苦悩に直面する看護師が、辛く苦しい気持ちへの忍耐力・回復力である道徳的レジリエンスを発揮するための要因に関する検討をしています。



倫理的苦悩を抱く看護師のストーリーライン

アピールポイント

小児医療現場の看護師経験を経て、臨床で感じた倫理的な疑問や課題に関する研究に取り組んでいます。

患者の有意義な生活と健康を促進できるアイケアの開発に関する研究

看護学科（看護学）

三沢 萌伽

●連絡先

TEL：054-202-2919

E-Mail：m.misawa@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

アイケア，集中治療室



集中治療室に入室した患者は、もともと眼疾患がないにも関わらず、眼表面の乾燥や変性、潰瘍形成、感染といった2次的障害を来すことがあります。これらが重症化すると、視力低下だけではなく、睡眠異常、主観的幸福度の低下、抑うつ症状の併発なども招き、病状回復後の生活や健康そのものへの弊害となります。眼表面障害の予防としてアイケア（眼のケア）が必須ですが、エビデンスに基づいたアイケアの確立はされていない現状です。そのため、エビデンスのあるアイケアの確立に向けて日々研究をしています。一日でも早くアイケアの確立および普及をさせて、集中治療を受けた患者が心身ともに健康な姿でその人らしい生活を送ることができるようにしたいです。

アピールポイント

眼球保護ができるツール（睑の代替となるもの）を開発したいです。湿潤環境の維持ができ、酸素透過性が高く、緑膿菌などの細菌の侵入を防ぐことができる素材を探しています。ナタデココやハイドロジェルに詳しい方を探しています。

① 看護学生の高齢観の関連要因と因子分析

② ICT 活用による新たな高齢者ケアの可能性

看護学科（老年看護学）

宮澤 典子

● 連絡先 TEL : 054-202-2658
E-Mail : m.noriko@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

高齢者, ICT, オンライン面会, 高齢者観, ケア

- ① 国連の世界保健機構の高齢者の定義は「65歳以上」であり、医療環境・衛生環境の改善を受けて世界的に平均寿命は延伸し、それを受けて世界人口に占める高齢者の割合が高くなっており、益々高齢者支援が大きな課題となっている。日本の平均寿命は87.45/81.41歳（2019年女/男）、高齢化率28.7%（2020年時点）と超高齢社会になり、厚生労働省は、「人生100年時代」を標榜し、超高齢社会に対応できる制度整備が急務になっている。日本でもWHOの定義と同義にて高齢者の定義は「65歳以上」を示しているが、平均寿命・健康寿命の延伸を受け、心身の機能を科学的・客観的に評価して75歳以上を高齢者と再定義する動きも出てきている。それらの社会的要請を受け、学生の「高齢者観」の再構築が求められており、現代の学生が抱く高齢者観を整理することにより、超高齢社会に求められる看護医療者としての知識構築の一助としていく。
- ② 2020年度より新型コロナウイルス感染拡大に伴い、多くの医療機関で対面の面会制限が継続して行われてい中、病院では面会制限により家族と患者のコミュニケーション不足や認知症患者の意思決定問題に影響を及ぼしているとの報告がある。高齢者は新型コロナウイルスによる死亡率が高いため特に注意を要し、対面面会の代替案としてオンライン面会（テレビ電話システムやWebアプリのビデオ通話機能等のインターネットを利用する面会）の推進が行われているが、介護老人福祉施設でICTの活用導入率は不明な点が多い。そこで、介護施設におけるICTの活用を目指し、利用者のより良い療養環境づくり、介護者の介護負担を目指し、介護現場でのICT導入現状把握を行っている。

在宅で定期補充療法を行っている血友病を持つ子どもと、その親に関する研究



看護学科（小児看護学）

梁川 明

● 連絡先

TEL：054-202-2915

E-Mail：akira-yanagawa@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

小児看護，血友病，思春期，自己注射，親子，CRC



血友病の患者さんは全国に約7000名おり、20歳までの患者さんでは、約650名が在宅で出血抑制治療を行っている。出血抑制治療として静脈内に凝固因子製剤を投与する定期補充療法が行われてきたが、近年では新たな薬剤であるnon-factor製剤の登場により皮下注射による出血抑制治療も増加してきている。特に乳幼児のような血管が細い場合は、静脈穿刺が容易ではないため、出血抑制治療の約80%を占めるようになった。しかし、6歳以上20歳以下では約70%は静脈内穿刺が必要な定期補充療法を行っており、思春期の患者さん自身が習得するスキルとして未だ重要であると考えます。

思春期やAYA世代において定期補充療法の実施率が落ち込むと言われており、患者家族が抱える思いや取り組みについて知ることから、その実態を明らかにし、思春期の患者さんが抱える課題や、セルフケアを身に付けていくあり方の示唆を得ることで、患者さんの生涯に渡るQOLを良好に保てるような看護支援が出来ることを目指した研究をしています。

また、CRCで培った経験を活かし、看護資格を持つCRCの重要性や教育の必要性についても今後研究していきたいと考えています。

アピールポイント

小児血友病の看護，また，看護師資格を持つCRCとしての経験から協力できることについてご連絡頂けると幸いです。

小児看護師を対象にした看護倫理教育プログラムの開発



看護学科（小児看護学）
看護学研究科（小児看護学）

山下 早苗

●連絡先 TEL：054-202-2916 FAX：054-202-2916
E-Mail：y-sanae@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

看護倫理，小児看護，看護教育，看護実践，
看護研究



看護倫理は以下の問いに応えるものだと思います。

- ・どこに立って（自分の役割）、その状況をみているか？
- ・誰に対して責任を果たさなければならないか？
- ・責任を果たすためにどの様に行動するか？
- ・どの様な人でありたいか？

看護倫理は看護実践と共にあり、「看護師としての生き方」そのものです。

小児看護において看護師は、目の前にいる子どもの最善の利益を守る責任があります。そのため小児看護実践では、親との価値観の対立、医師との価値観の対立、治療の是非やインフォームド・アセント（コンセンツ）の是非、子どもの尊厳に関する苦悩など、様々な倫理的問題に遭遇します。

看護師が子どもの advocater として倫理的責任を果たせる様に支援する必要があると考え、「小児看護師を対象にした看護倫理教育プログラムの開発」研究に取り組んでいます。具体的には、看護倫理教育における視聴覚教材の開発、評価尺度の開発、ワークショップの開催を行います。

倫理的能力のある看護師とは

看護倫理学者であるAnn Gallagherは、倫理的能力について5つの構成要素を述べている。

- ①倫理的に【知ること（知識面）】
- ②倫理的に【見ること（知覚面）】
- ③倫理的に【振り返ること（内省面）】
- ④倫理的に【行うこと（行動面）】
- ⑤倫理的に【あること（資質面）】

出典：Anne J. davis, Verena Tschudin Louise de Raevie編集 小西恵美子監訳。
看護倫理を教える・学ぶ。日本看護協会出版会

近代看護の創始者ナイチンゲールの 「よい看護師」としてのあり方

「天使とは、美しい花をまき散らす者ではなく、
苦悩する者のために戦う者のことだ」

出典：Florence Nightingale: 湯積 ます 翻訳、薄井担子翻訳。
看護覚え書：現代社



Florence Nightingale
(1820～1910年)

アピール ポイント

看護倫理教育を行う上で、視聴覚教材の開発やワークショップ開催にご協力くださる企業を探しています。

手術を受ける乳がん女性への看護に関する研究



看護学科（成人看護学）
看護学研究科（成人看護学）

山田 紋子

● 連絡先 E-Mail : yamadaa@u-shizuoka-ken.ac.jp

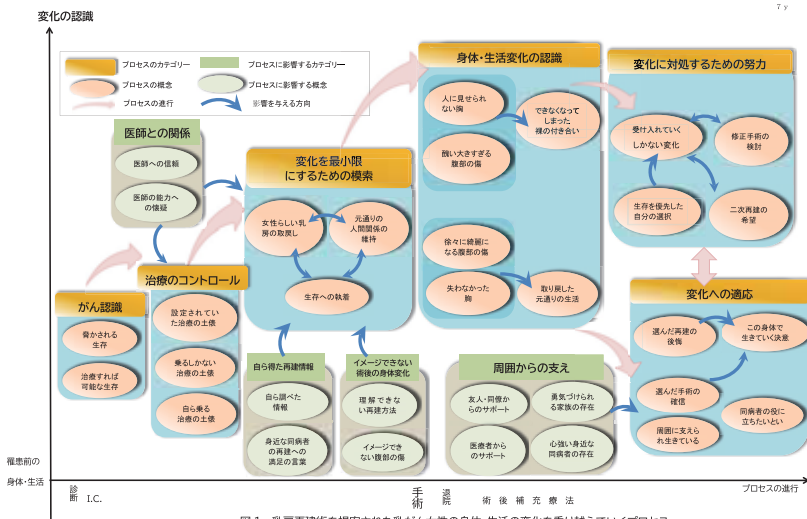
キーワード

看護, 乳がん, 意思決定, 手術



乳がんは、女性のがんの中で年齢調整罹患率 第1位を占め、女性にとって罹患しやすいがんの1つだといえる。その治療は複数の方法を組み合わせる行うが、多くの場合、手術療法は必須となる。乳がん手術を受ける女性は、がん罹患した衝撃を受けながら、手術の術式を自ら意思決定し、乳房の変形あるいは喪失を受け入れていかなければならない。その中にはボディイメージや自己像の否定的変化、落ち込みやうつを感じる女性もいる。

私は看護師として、このようなさまざまな想いを抱く多くの女性に出会い、自身も悩みながら関わってきた。こうした経験に基づき、手術を受ける乳がん女性へのサポートについて探究している。現在は、近年、乳房喪失への対応の1つとして注目されている乳房再建術に焦点をあて、再建術を受けるか否かの意思決定や手術に伴う体験をテーマとし、看護師の役割について検討している。



アピールポイント

昨今、がんを抱えながら働く女性は大勢いらっしゃいます。微力ですが、少しでもそうした皆様のお役に立てたらと考えております。

男性作家による女性の筆名使用事例の研究

一般教育等 有元 志保

●連絡先 TEL: 054-202-2643

キーワード ウィリアム・シャープ／フィオナ・マクラウド、
筆名、ジェンダー、ケルト、イギリス文学、
スコットランド文学



作家が異性の筆名を使用する意図を探ることは、作家個人のジェンダー意識を解明する手がかりとなるだけでなく、その行為を歴史的、社会的文脈に置くことによって、作品解釈の深化をもたらす可能性もっています。ウィリアム・シャープ(1855-1905)は、本名に加えて多数の異名の下に執筆を行ったスコットランド出身の作家、批評家であり、特にフィオナ・マクラウドの名における、ケルト文芸復興との関わりによって知られています。10年以上にわたりマクラウドを名乗って文筆活動を継続しただけでなく、実生活でマクラウドのペルソナを構築して人々と交流したシャープは、異性を装った男性作家の代表的存在といえます。シャープをはじめとして、イギリスやアメリカで男性作家たちが女性名を用いた事例に着目し、その経緯や背景を辿るとともに、女性名で発表された作品や、それらに対する批評を分析して、異性名使用の効果について考察しています。近年は、明治から昭和期にかけての日本でのシャープ／マクラウド受容にも関心もっています。



オンラインゲームを利用した社会的スキル向上およびコミュニティ創出



一般教育等 **高田 佳輔**

● 連絡先

E-Mail : k-takada@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード オンラインゲーム, MMORPG, ソーシャルスキル, コミュニティ, サードプレイス, 協調, コミュニケーション, ゲーム, 集団問題解決能力

数値（量的）データ、および、インタビュー等の（質的）データを用いた様々な分析を行っています。

① オンラインゲームのプレイングが利用者に及ぼす影響（良い側面・悪い側面）

一般に発売されているオンラインゲームを対象に、プレイヤーの集団問題解決能力の測定を5年以上継続して行っています。これまでに、特定ジャンルのオンラインゲームをプレイすることで、現実世界における集団問題解決能力が向上することがデータで示されました。他方で、オンラインゲームをプレイする動機と依存との関係性についても同様の年数検討を行っており、ゲームに依存しやすい・依存しにくいプレイスタイルについてもデータを用いて明らかにしています。

② オンラインゲームのコミュニティスペースとしての利用可能性

近年、現代人の日常生活での多忙さや、距離的制約により友人と交流が難しいなどの影響でコミュニティが維持できないという問題があります。しかしながら、オンラインゲームプレイヤーたちは、このような状況下でもコミュニケーションを十分にとり、コミュニティを拡大し続けています。さらに、プレイヤーはオンライン上で現実世界では出会うことが難しかったであろう多様な人々との交流を行っています。このようなコミュニティスペース（サードプレイス）としてのオンラインゲームの利用可能性について検討を行っています。

アピールポイント

遊びながらスキルの向上やコミュニティへの参加を可能とするオンラインゲームについて、良し・悪しの両側面からデータを用いながら情報提供ができます。

腸オルガノイドを用いた栄養素吸収の研究



一般教育等

竹下 典子

● 連絡先

TEL : 054-202-2631

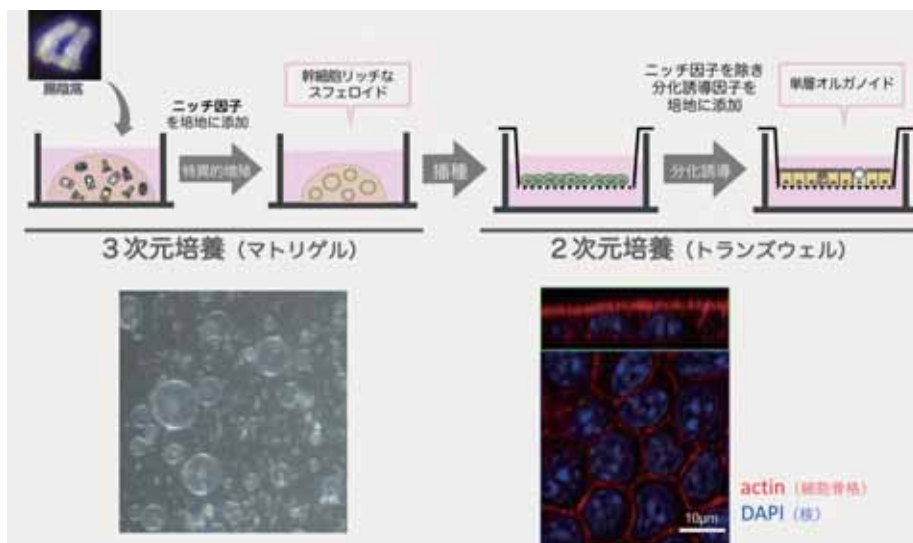
E-Mail : n-ishizuka@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

小腸, 栄養素吸収, オルガノイド, 経上皮輸送



小腸の吸収・分泌機能をin vitro（生体外）で評価するために、これまでは小腸のモデル細胞株であるCaco-2細胞の単層培養系や動物個体から摘出した標本が使われてきました。しかし、Caco-2は大腸由来で生体の小腸とは生理学的に異なる点が多いこと、摘出小腸では絨毛の立体的な構造のため、吸収機能のみの定量的な測定などは困難であることなど、それぞれ問題がありました。近年、単離培養した腸幹細胞を用い、生体内の腸組織に似た「腸オルガノイド」の培養技術が開発され、動物実験やこれまでの培養細胞の欠点を克服した新たなツールとして期待されています。腸オルガノイドの単層培養法を確立し、オルガノイドを用いた栄養素吸収機能の評価に取り組んでいます。



アピールポイント

オルガノイドは、動物の福祉の観点から、実験動物の使用数を減らす実験方法としても注目されています。

暑熱下運動時のパフォーマンス向上と熱中症予防



一般教育等

林 恵嗣

● 連絡先

TEL : 054-202-2639 FAX : 054-202-2639

E-Mail : khayashi@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

運動, 体温, 呼吸, 循環, 冷却, 炭酸泉, 熱中症, 過呼吸, スポーツ



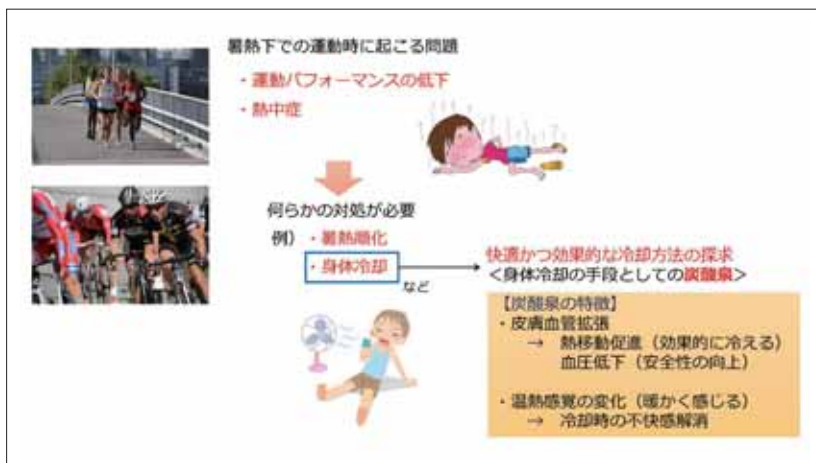
短期大学部

【体温上昇による換気亢進】

体温が上昇すると、呼吸が激しくなります。この激しい呼吸によって体内の二酸化炭素が過剰に排出されてしまい、末梢血管が収縮してしまいます（二酸化炭素には血管拡張作用があります）。特に、脳血管でこの影響は大きく、これが運動パフォーマンスの低下や熱中症にも関わっているのではないかと考えられています。この換気反応のメカニズムや防止方法に関する研究を進めています。

【炭酸泉を用いた効果的な身体冷却方法】

体温の過度な上昇は運動パフォーマンスの低下や熱中症の原因となります。このような過度な体温上昇を抑制する手段の一つとして身体冷却がありますが、身体冷却は「寒い・冷たい」といった不快感を伴うこともあります。このような課題を解消しながら、より快適で効果的な身体冷却方法として炭酸泉を用いた冷却があります。炭酸泉は通常の水と比べると暖かく感じるという特性があるため、不快感が軽減されます。さらに、炭酸泉に浸かると、皮膚血管の拡張が起ることによって、熱移動が促進され、急激な血圧上昇も抑えられます。このような炭酸泉による冷却効果について検討しています。



アピールポイント

熱中症予防に関する情報提供や、運動中の生理的データ測定等について協力できます。

シフトワーカーの健康維持

歯科衛生学科 **金山 圭一**

（本研究内容についてご興味のある方は、地域・産学連携推進室までご連絡ください。）
TEL：054-264-5124 E-Mail：renkei@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

シフトワーク，交替勤務，口腔保健，
社会的時差ぼけ，労働衛生



概日リズムを乱す生活習慣の変化は、慢性的なストレスの原因になります。就労時間の形態、中でも継続的な交替勤務（シフトワーク）は、慢性的な時差ぼけ状態を引き起こします。

私の研究では、マウスモデルを用いたコホート研究によって、概日リズムの乱れと歯周病進行の因果性について検証しています。

研究の成果により、概日リズムの乱れが歯周組織・口腔の健康に及ぼす影響を明確にしたいと考えています。具体的には「このシフト勤務なら口腔の健康に対し許容できる」という体への負担が少ない勤務条件の提示など、交替勤務者の健康維持のための知見を提供できます。

アピール ポイント

職域・地域の方々の健康のために、基礎研究から得られた知見をお伝えできます。

子どもの口腔健康に関するスペシャリスト —疫学から無作為化比較研究まで—



歯科衛生学科 仲井 雪絵

●連絡先 TEL : 054-202-2686 FAX : 054-202-2686

キーワード 妊娠期からの口腔保健, マイナス1歳から始めるむし歯予防, 乳幼児歯科保健, キシリトールを用いた齲蝕制御, 食基盤型予防戦略, 歯科恐怖, Food Frequency Questionnaire, ペインコントロール, 行動科学



研究の進展とともに病因は解明され予防法が開発されているのに、むし歯はなぜ撲滅できないのか？おそらく「理論が正しくても、行動変容を伴わなければ、成果に結びつかない」からです。そこで、行動科学的視点を忘れずに「むし歯予防」の研究に従事してきました。日本人小児のむし歯を世界一少なくするためには、その「感染症」的側面に介入する必要があると考え、妊婦に対しキシリトールを用いてむし歯菌の母子伝播予防効果を検証するための無作為化比較研究を5年間実施し、その成果を歯科で権威ある国際雑誌に掲載しました。最近のSystematic review 論文においてサーチされた1078本の関連論文の中で、ファイナリスト2本の中に自分の論文が選ばれていました。科学的根拠として高い評価を得たことを励みにして、現在は、齲蝕誘発性の観点で食事因子（ショ糖摂取）を分析しています。

短期大学部



【歯科医療者向け書籍】

仲井 雪絵 著

「マイナス1歳からはじめるむし歯予防」
(株)オーラルケア 発行



【一般の方向け書籍】

仲井 雪絵 著

「マイナス1歳からはじめるむし歯予防
～ママになる前からできること～」
(株)オーラルケア 発行

**アピール
ポイント**

「マイナス1歳からはじめるむし歯予防」と題した最先端の齲蝕予防に関する講演を、国内外で100回以上開催しています。

歯科衛生士のプロフェッショナリズムアイデンティティに関する研究

歯科衛生学科 **長谷 由紀子**

（本研究内容についてご興味のある方は、地域・産学連携推進室までご連絡ください。）
TEL：054-264-5124 E-Mail：renkei@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード プロフェッショナリズム, 専門職アイデンティティ, 医療人教育, 医療コミュニケーション, 多職種連携医療教育, 歯科衛生士の専門性



医療者へのニーズが多様化している現代社会からは、歯科衛生士に求められるものも複雑化・多様化しています。そのようなニーズに対応するため、歯科衛生士教育はエキスパート（職人）教育からグローバルな医療人としての医学教育へと転換するべき時にきています。歯科衛生士教育の確立のためには、まず歯科衛生士のプロフェッショナルリズムアイデンティティを解明し、歯科衛生士の専門性を確立していかなければなりません。

本研究では歯科衛生士のプロフェッショナルリズムに関する意識や態度、それに関わる因子の解明を進めています。プロフェッショナルリズムは様々な社会文化的背景に影響を受けて形成、涵養されています。そのため、歯科衛生士の臨床現場や教育現場における患者とのコミュニケーションや多職種連携などの行動科学に関わる認識をナラティブな視点で捉えた質的研究を行っています。



アピールポイント

医療人のプロフェッショナルリズム、医療コミュニケーション教育に関する教育研究を行なっています。卒前教育だけでなく、卒後研修としてのコミュニケーション教育プログラムの提供も可能です。

歯・口の健康とヘルスリテラシーとの関連

歯科衛生学科 野口 有紀

●連絡先 TEL：054-202-2648

キーワード

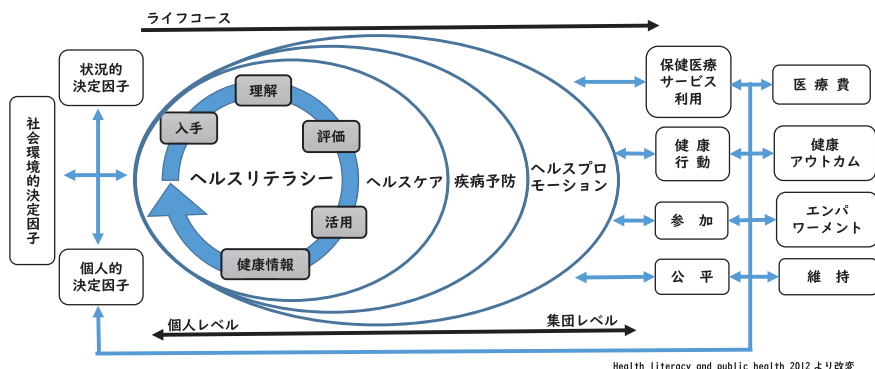
歯・口の健康, 健康寿命, 健康格差,
オーラルヘルスリテラシー, eヘルスリテラシー



健康増進を図るうえで、ヘルスリテラシーという概念が注目を浴びています。ヘルスリテラシーとは、多くの健康や医療に係る情報の中から、正しい情報を選択し、その情報をよく理解し使いこなしていく能力のことです。ヘルスリテラシーが高いほど、健康的な行動習慣が身に付いていたり、保健医療サービスを利用する機会が多いなど、健康を維持し病気を悪化させてないことが報告されています。米国では健康格差が改善しない理由のひとつとして、健康情報が伝わっていない、または伝わりにくい人がいることが指摘されています。日本のヘルスリテラシーは海外の国と比較して、低いという調査報告があります。わが国において、オーラル（歯・口）ヘルスリテラシーやe（インターネットなど）ヘルスリテラシーが、健康に影響を及ぼしているかどうかについて研究をしています。

短期大学部

ヘルスリテラシーが健康に及ぼす影響イメージ



アピールポイント

歯・口の健康を通じて、健康寿命や健康格差に係る健康支援を行っています。学術的に裏付けのあるむし歯や歯周病予防に関する令和における最新の情報が提供できます。

各ライフステージの特徴的な生活習慣と口腔の健康の関連について

短期大学部
(歯科衛生学科) 藤田 美枝子

●連絡先 TEL: 054-202-2635

キーワード

歯周疾患予防, う蝕予防, ライフステージ, 生活習慣



高齢になっても自分の歯を保つことは、口腔機能のみならず、全身の健康にとっても良いことが分かってきました。歯を失う原因の多くは、う蝕と歯周病です。歯の喪失を予防するためには、生涯を通じ、ライフステージの特徴に合わせた対策を行うことが重要です。特に、中学生は歯肉炎が急増する時期であり、歯周疾患予防にとって重要な時期と言えます。

これまで、中学生を対象に、日常の歯磨き、歯科受診行動等の歯科保健行動だけでなく、インターネット利用や習慣的摂取飲料と口腔健康状態の関連について調査、研究をしてきました。近年、インターネットが若年層にも急速に普及し、インターネット利用時間が長くなる傾向にあります。こういった環境が、夜更かしや夜食の摂取等、中学生の生活習慣に影響を与えている可能性があります。データを分析したところ、インターネット利用時間が長い群の方が、口腔健康状態が良くないことが示唆されました。

今後も、ライフステージの特徴に応じた歯科疾患の予防に関する研究を進めていきたいと考えています。

歯周病の病因と予防の研究 {マトリックス・メタロプロテアーゼ (MMP) を中心に}

歯科衛生学科 吉田 直樹

(本研究内容についてご興味のある方は、地域・産学連携推進室までご連絡ください。)
TEL : 054-264-5124 E-Mail : renkei@u-shizuoka-ken.ac.jp

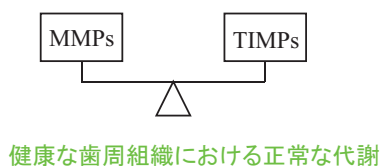
キーワード

歯周病, マトリックス・メタロプロテアーゼ (MMP), TIMP, コラーゲン

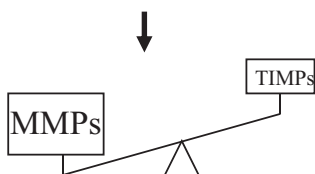


短期大学部

マトリックス・メタロプロテアーゼ(MMP)は、生体において、コラーゲンをはじめとする細胞外マトリックス(結合組織)の成分を分解することができる、タンパク質分解酵素です。MMPは、生理的な、発生、成長における組織の再構築において重要な役割を演じています。一方で、MMPは様々な疾患の進展に関与しています。ティッシュ・インヒビター・オブ・メタロプロテアーゼ(TIMPs)は、MMPの活性を阻害し、活性を精密に制御できる、生体由来のタンパク質です。歯周病、リウマチ性関節炎、悪性腫瘍の転移などにおいては、MMPとTIMPのバランスが崩れていることが明らかにされています。このメカニズムの詳細な研究とそれに基づいた疾患の予防や治療をめざした研究を行っています。



健康な歯周組織



歯周炎



歯根膜の破壊
歯槽骨の吸収



アピールポイント

近年、歯周病は全身にも影響を及ぼすことが明らかにされてきました。歯周病の病因、予防、治療の研究はますます重要視されてきています。

高齢者の地域居住を支える介護従事者の技術教育プログラムの開発

社会福祉学科
(介護福祉専攻)

アン キョンイ
安 瓊伊
(AHN Kyung-ye)

●連絡先 TEL: 054-202-2638
E-Mail: ahn@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

地域居住高齢者支援, 介護従事者,
介護福祉士養成校学生, 求められる技術, 学習プログラム

介護従事者や介護福祉士養成課程の学生の介護技術に関する学習内容は、未だに身体介助に関する技術が主であります。これまで行ってきた研究で介護福祉士の実態から明らかにした「技術」は、地域資源の発見と活用、専門職や住民など多様な人々との連携、高齢者の自己決定に基づく個別性の高い文化・社会的生活の支援など多様でした。現在これらの技術習得は、介護従事者ら個人の経験や学習に依存し、感染症などにより実習経験の乏しい学生は学ぶ機会を得ることすら困難でした。そのため、高齢者の地域居住実現のために介護従事者に求められる技術を教育・学習する方法の検討が求められます。

本研究では、介護福祉士養成校の教員や福祉施設・事業所の人材育成担当者らが「介護従事者に求められる技術」の獲得を促す教育的取り組みの実態を量的・質的に把握し、高齢者の希望する生活を実現する能力を高めるため、どのような状況下でも活用可能な講義・演習の企画書や教材を含む教育プログラムの開発を目指します。はじめに介護福祉士養成校学生や介護従事者に対する身体介助以外の技術に関する教育内容や方法に関する文献レビューに取り組んでいます。



高齢者の地域居住を支える介護従事者の技術教育プログラムの開発

地域支え合い災害時要援護者支援モデルの構築



社会福祉学科
(社会福祉専攻) **江原 勝幸**

● 連絡先 TEL : 054-202-2685 FAX : 054-202-2685

キーワード

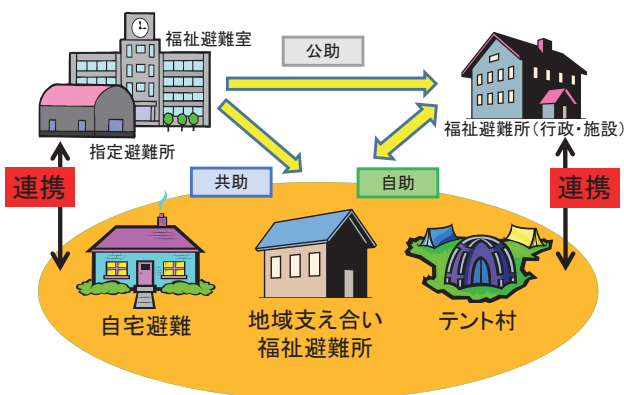
災害時要援護者, 福祉避難所, 地域福祉力,
多層的ネットワーク支援, 地域づくり



避難行動や避難生活において、高齢者、障害者、子どもなどの要援護者支援は地域の喫緊な課題であるが、具体的な支援策に結びついていない。「自助」には限界があり、「共助」の関係性が弱まり、「公助」も一向に進まない中、要援護者が大規模災害時に取り残されることをまた繰り返すことになりかねない。本研究は、地域住民主体で支え合う福祉避難所の設置及び運営を考察し、多層的なネットワーク支援による要援護者支援体制を構築するものである。普段からの関係性を活かした共助が要援護者の命を救い、生活を支えることを中心に、地域での自助・共助・公助が機能する支援モデルを考察・検証する。平常時から顔の見える関係や地域の福祉力が災害時に力を発揮する地域支え合い支援は、より豊かで安心できる地域づくりに貢献することが期待できる。

短期大学部

要援護者の地域支え合い支援モデル



アピールポイント

具体的な地域での要援護者支援の体制づくりを目指します。
普段の住民同士の関係強化や地域福祉力の向上が期待できます。

1. 介護福祉人材育成における生活支援技術教育

2. 介護と就労の両立をめぐる家族の生活経営支援

社会福祉学科
(介護福祉専攻) **奥田 都子**

●連絡先 TEL: 054-202-2689 FAX: 054-202-2689
E-Mail: okuda@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード 要介護高齢者、家族支援、ワークライフバランス、介護離職、介護休業、介護福祉人材育成、生活支援のための家政学



- (1) 介護福祉人材の育成に向けて、家政学の視点から必要な教育内容と方法について研究しています。衣・食・住・生活経営の各領域の研究者による共同研究に基づき、生活者の自立に必要な基本的知識・技術から生活支援に有用な知識・技術までを包含する教育内容と方法を精選し、これまでに5冊の教科書を刊行し介護福祉教育に貢献してきました。2024年には、6冊目の刊行を予定しています。
- (2) 働きながら家族の介護に従事するビジネスケアラーが増え、介護に起因する経済損失額は約9兆円と推計されています。介護家族はニーズに応じた社会資源や制度を適切に選択・利用できているのか、家族の役割関係をどのように調整しているのか、介護保険サービスでは対応できない介護需要を満たす生活支援関連サービスを活用できているのか、等の視点から、家族の生活経営と生活設計の実態を探り、両立体制構築に向けて支援する方法について検討します。



アピールポイント

介護離職や介護と仕事の両立に困った経験のある方々にご協力をいただき、実態に則した支援メニューの作成を検討しています。

災害時要配慮者を対象とした福祉支援活動と研修・教材開発

社会福祉学科

鈴木 俊文

・連絡先

TEL：054-202-2681

E-Mail：tsuzuki@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

災害時要配慮者，災害時の福祉・介護，福祉・介護施設，防災研修，災害派遣福祉チーム，DWAT



災害発生時に一般避難所等において災害時要配慮者（高齢者、障がい者、子ども等）を対象に、災害関連死等の2次被害防止を目的に支援を行う「災害派遣福祉チーム（以下、DWAT（Disaster Welfare Assistance Team）登録員）」の養成、活動に有用な教材開発に取り組んでいます。

福祉・介護の対象となる要配慮者における災害対応は、発災時に生じる避難行動や生命維持レベルの「緊急対応」ととどまらず、災害関連死等二次被害を防止するために、被災生活を長期的な視野で健康管理するための「合併症予防の対応」や、被災生活で「制限された環境下でのケア」など、災害過程に応じた設備、しくみ、マンパワーが欠かせません。近年、震災等に加え豪雨による局所的な被害が年々増加し、災害対応は緊急時ではなく、平時からの活動が極めて重要になっています。

本研究では、これまでに自然災害で被災した一般避難所や高齢者・障害者等福祉現場の災害対応を集積し、福祉・介護施設の災害対応や避難所におけるDWATの活動など、災害時要配慮者支援の目的に応じた研修プログラム、教材開発に取り組んでいます。



アピールポイント

被災事例を基に災害対応の実際と必要な支援等を疑似的に体験しながら考える学習中心型の研修づくりに取り組んでいます。福祉・介護専門職や事業所のニーズ、目的に応じて、研修プログラム作成や研修提供を行います。

短期大学部

介護福祉士実習指導者講習会における教授及び評価方法に関する研究

社会福祉学科
(介護福祉専攻) 高木 剛

● 連絡先 TEL：054-202-2676 FAX：054-202-2676

キーワード 介護福祉士実習指導者講習会, 教授方法, 修了評価, 実習指導者, 学修意欲・姿勢, 学修効果



短期大学部

2007年12月の社会福祉士及び介護福祉士法の一部改正に伴い、社会福祉施設等（ただし、「実習施設・事業等Ⅱ」に限る）の実習指導者の要件として、介護福祉士実習指導者講習会（以下、講習会）の受講が義務づけられた。講習会は、介護福祉士の職能団体であるN会をはじめ、学校法人や株式会社などが実施している。

近年、受講者の低年齢化とともに学修意欲・姿勢などに疑問を感じさせるケースが目立ってきている。消極的な受講動機、課題の未提出、講義中の居眠りなどである。このような現状を踏まえ、筆者は学修効果を高められるような教授方法や修了評価の在り方等について探究している。なお、筆者が2018年12月から2019年6月に、N会の47支部に対して講習会における「修了評価」の実施状況を調査したところ、実施していたのはわずか1支部であった（表1）。

海外に目を向けてみると、ドイツの実習指導者養成では修了評価が義務づけられている。各州によって若干異なるが、多くの場合、筆記試験（専門研究）、口述試験、実技試験といった形式で行われる。例えば、ハンブルク州では修了評価として筆記試験（専門研究）、実技試験、口述試験が課せられ、筆記試験（専門研究）では職業教育に係るテーマを個々の受講者が設定し、授業計画の立案、実施、評価などについてレポートにまとめる。また、実技試験では、試験官の立ち合いのもと、受講者が指導案にもとづき訓練生に介護実践について指導する（試験時間：30分間）。さらに口述試験では、個々の受講者の筆記試験（専門研究）について、試験官と討論する（試験時間：15分間）。なお、各試験の評価割合は、筆記試験（30%）、実技試験（30%）、口述試験（40%）である。いずれの試験も、「区分1」100～92ポイント（非常に優れている）から「区分6」20～0ポイント（不十分）のいずれかで評価され、「区分4」66～50ポイント（十分）に満たない場合は再試験となる。

本研究では、このようなドイツの取り組みも参考にしたい。

表1. N会47支部における講習会の修了評価の有無

支部	ホームページ 等の有無	修了評価の有無	支部	ホームページ 等の有無	修了評価の有無
A	有	無	Z	有	不明
B	有	無	aa	有	無
C	無	不明	bb	有	無
D	有	無	cc	有	無
E	有	不明	dd	有	無
F	有	無	ee	有	無
G	有	無	ff	有	無
H	有	無	gg	有	無
I	有	不明	hh	有	無
J	有	無	ii	有	無
K	有	無	jj	有	無
L	有	無	kk	有	無
M	有	無	ll	有	無
O	有	無	mm	有	無
P	有	無	nn	有	無
Q	有	無	oo	有	無
R	有	無	pp	無	不明
S	有	無	qq	有	無
T	有	無	rr	有	無
U	有	無	ss	有	無
V	有	無	tt	有	不明
W	有	無	uu	有	無
X	有	無	vv	有	有
Y	有	無	計	有 (45 支部)	有 (1支部)

(注)修了評価「有」の判断は、講習会の開催要項等にその旨が記載されていることを条件とした。

アピール ポイント

介護福祉士実習指導者講習会の講師のほか、受講者の学修効果を高める教授・評価方法に関する研究（共同研究）などには、積極的に協力します。

マーケット・バスケット方式による最低生計費の研究

社会福祉学科
(社会福祉専攻) **中澤 秀一**

●連絡先 TEL: 054-202-2642
E-Mail: nakasyu@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード 最低生計費, マーケット・バスケット方式,
最低賃金, 社会保障制度, 地方再生, 生活時間

SDGs (持続可能な開発目標) のなかにある「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「働きがいも経済成長も」等を実現するための第一歩として、人間らしい普通の暮らしを実現するためにはどれくらいの費用がかかるのか試算することを研究しています。具体的には、マーケット・バスケット方式という方法で試算を行っています。この方法は、普通の暮らしに必要な費用を、食費＝○円、住宅費＝△円、光熱水道費＝◇円、被服費＝□円・・・と、一つひとつ丁寧に積み上げていきます。これまでに全国27都道府県で調査を行い、それぞれで普通の暮らしにかかる費用を算定しています。これからも若者も、子育て世帯も、高齢世帯も、外国人も、すべての人が健康で文化的な暮らしが実現できるように、働き方やそれを支える社会制度(社会保障など)について研究をしていきたいと思っています。

表 各地の最低生計費比較

都道府県名		東京都		静岡県	
自治体名		北区		静岡市	
性別		男性	女性	男性	女性
消費支出		179,804	176,824	181,897	180,960
食費		44,361	35,858	40,253	34,240
住居費		57,292	57,292	38,000	38,000
水道・光熱		6,955	6,780	7,559	6,594
家具・家事用品		2,540	2,703	3,883	4,124
被服・履物		6,806	5,302	7,521	4,296
保健医療		1,009	2,885	3,255	4,516
交通・通信		12,075	12,075	43,356	43,167
教養・娯楽		25,577	25,613	18,408	22,034
その他		23,189	28,316	19,662	23,989
非消費支出		51,938	51,938	46,662	46,662
予備費		17,900	17,600	18,100	18,000
最低生計費(月額・税等抜)		197,704	194,424	199,997	198,960
最低生計費(月額・税等込)		249,642	246,362	246,659	245,622
年額(税込)		2,995,704	2,956,344	2,959,908	2,947,464
月150時間換算		1,664	1,642	1,644	1,637
2023年最低賃金額		1,113		984	
都道府県名		岡山県		沖縄県	
自治体名		岡山市		那覇市	
性別		男性	女性	男性	女性
消費支出		180,404	186,105	179,439	182,095
食費		40,333	33,993	41,266	33,200
住居費		35,417	35,417	36,458	36,458
水道・光熱		7,273	11,491	8,764	10,424
家具・家事用品		4,032	4,297	3,826	3,851
被服・履物		6,575	7,701	5,021	3,339
保健医療		1,094	2,352	1,142	3,643
交通・通信		33,384	33,384	33,794	33,794
教養・娯楽		25,454	25,547	25,620	25,177
その他		26,842	31,923	23,548	32,209
非消費支出		50,107	50,107	48,977	48,977
予備費		18,000	18,000	17,900	18,200
最低生計費(月額・税等抜)		198,404	204,705	197,339	200,295
最低生計費(月額・税等込)		248,511	254,812	246,316	249,272
年額(税込)		2,982,132	3,057,744	2,955,792	2,991,264
月150時間換算		1,657	1,699	1,642	1,662
2023年最低賃金額		932		896	

注1) 25歳単身・賃貸ワンルームマンション・アパート(25㎡)に居住という条件で試算

注2) その他には理美容品費、理美容サービス費、身の回り用品費、交際費、自由裁量費を含む

注3) 非消費支出＝所得税+住民税+社会保険料

短期大学部

**アピール
ポイント**

調査結果は、新聞やテレビ等の媒体で紹介されており、普通の暮らしを知るための資料として活用されています。

ホスピタル・プレイによる病児・障害児の支援及び対人援助

社会福祉学科
(社会福祉専攻) **松平 千佳**

●連絡先 TEL: 054-202-2653 FAX: 054-202-2653

キーワード

ホスピタル・プレイ, Hospital Play Specialist,
ソーシャルワーク, 病児, プレイ・セラピー, 対人援助



遊び(Play)の力によって病児や障害児とその家族を支援する専門職ホスピタル・プレイ・スペシャリスト(Hospital Play Specialist:HPS)について、「セラピューティックな遊び、遊びを使った子ども支援方法の研究及び実践」、「ホスピタル・プレイの価値創造」、「小児医療におけるHPSの専門性確立」を中心に教育研究を行っています。

学術的な領域から子どもにやさしい医療を実現するための課題を明らかにするとともに、小児医療に関わるあらゆるプロセスにおいて遊び本来の力が発揮されるための研究と実践を積み重ねていきます。

平成19年度より開講しているHPS養成講座では、令和4年11月末までに227名の修了生を小児医療機関、福祉施設などに送り出しています。子どもにやさしい治療を実現するHPSの養成教育は、平成24年度に実施された独立行政法人日本学術振興会の調査の結果、特に優れており波及効果があると認められました。また、平成25年度文部科学省の「大学における特色ある教育事例の把握等に関する研究調査」において全国42大学の特色ある教育事例として選出されています。平成27年度には、週末中心に開講するHPS養成週末講座をパイロット事業として新たに実施することとなりました。その結果を分析評価し、HPSの専門的な視点、知識、技術を学ぶ新たな機会を提供していきたいと考えています。



アピールポイント

- ・HPS養成講座（平成19年～）・HPS養成週末講座（平成27年～）の開講
- ・静岡市障害者歯科保健センターとHPSのチームによる、障害児・者に対するやさしい歯科治療を実現するための協働事業の展開
- ・静岡市児童相談所におけるプレイセラピーを使ったアドバイザー業務担当

乳幼児期の子育て支援のための心理学的研究

こども学科 小林 佐知子

●連絡先 TEL&FAX : 054-202-2690

キーワード

動機づけ, 父親, 職場復帰, メンタルヘルス,
ソーシャル・サポート, 描画発達



短期大学部

現代の育児はストレスや不安を抱えやすく、虐待をはじめ不適切な養育を巡る問題や、父親の育児参加など社会的な課題が少なくありません。こうした諸問題をどうしたら解決できるのか、①親の心を深く理解する（心理メカニズムを解明する）、②効果的な支援方法を探る（子育て支援に役立てる）という2方向からアプローチしています。他方、保育の場で子どもの発達を捉えるための描画の可能性に着目し、描画発達の研究も行っています。

1) 育児の動機づけ

人はなぜ育児をするのか（しないのか）。育児に心が向かわない親たちの心を深く理解するために、“動機づけ（motivation）”の視点から育児場面における父親・母親の心理プロセスを解明しています。

2) 父親の育児

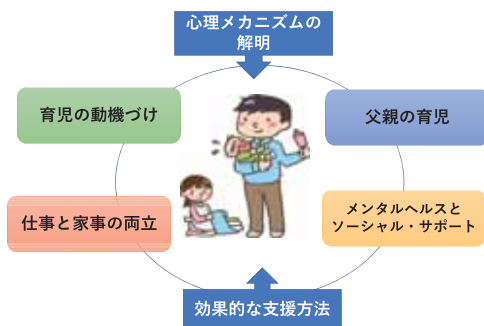
乳児をもつ父親の育児参加と発達プロセスに関する研究をしています。乳児が泣く場面での父親と母親の認知や解釈の違い、父親の育児行動の特徴を検討しながら、適切な父親の育児のあり方について考えています。

3) 仕事と家事の両立

働く母親が増加する一方で、育児休暇取得後の職場適応や、仕事と家庭の両立に悩む母親が増えています。これまであまり着目されなかった職場復帰前後における母親の心理と支援について研究しました。

4) 父親・母親のメンタルヘルスとソーシャル・サポート

抑うつ傾向を中心に、父親、母親のメンタルヘルスとその関連要因を研究してきました。環境要因（ソーシャル・サポート）と内的要因（親自身のパーソナリティなど）との相互作用モデルを構築しました。



アピールポイント

親や保育者、保健師などを対象に、育児に関するセミナーや研修会（子どもの心を育むための大人の関わり方、子どもの障害、職場復帰支援、メンタルケアなど）の講師を担当してきました。

美術教育における表現活動と鑑賞活動に関する実践的研究



こども学科 藤田 雅也

● 連絡先

TEL : 054-202-2687

E-Mail : fujita@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード 美術教育, 幼児造形教育, 図画工作科教育, 美術科教育, 触覚, 鑑賞学習指導, 表現と鑑賞, 授業づくり, ワークショップ, 石彫制作



これまでに、「鑑賞学習指導に関する全国調査の実施と分析」や「鑑賞学習ルーブリックの作成と活用」、「鑑賞学習指導の教材開発」に関する研究等に取り組んできました。現在は、「美術鑑賞学習指導体系の構築に関する実践的研究」(令和2・3・4・5年度文科省科研費基盤研究(B)、研究分担者、課題番号：20H016880001、研究代表者：松岡宏明)に取り組んでおり、国内外の研究者や実践者と共に研究を進めています。

また、「生命」をテーマとした石彫作品の制作と発表も行っています。作品を見て鑑賞するだけではなく、手で触れて鑑賞する授業を小学校や中学校などで実施し、触る行為が表現活動に与える影響について実践的な研究を展開しています。



石彫作品『大地の芽』
(H135×W360×D165 cm／六方石)



年長児を対象としたワークショップ
『みて かんじて つくって あそぶ』



小学生を対象としたワークショップ
『色砂をつくって、砂絵を楽しもう』

アピール ポイント

幼児や児童を対象とした造形ワークショップ及び実践研究会などで講師を務めることができます。保育・教育現場や美術館との連携による取り組みも可能です。

福祉的課題を抱える子どもの権利保障に関する研究

こども学科 **松浦 崇**

(本研究内容についてご興味のある方は、地域・産学連携推進室までご連絡ください。)
TEL : 054-264-5124 E-Mail : renkei@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

教育福祉, 子どもの権利, 社会的養護, 保育政策,
子ども虐待, 子どもの貧困, 子育て支援



「貧困」や「暴力」(虐待)、「障がい」、「差別」など、さまざまな形で困難(福祉的課題)を抱える子どもの権利保障をめぐる問題について研究しています。特に、社会的養護(さまざまな理由のため、家庭で生活できない子どもを社会全体で養育する制度)や、保育政策に関する研究を中心に進めています。

- 1) 「社会的養護」は、子ども虐待の増加と共に改めて注目され、制度の充実が進められています。研究では、子ども虐待が増加している社会的背景(家庭が抱える困難)や、社会的養護の歴史的変遷について検討しています。
- 2) 待機児童問題の深刻化に伴い、保育制度が急速に整備されていますが、「保育」が「預かり事業」として軽視される動きも見られます。そこで、近年の保育政策(とその背景)の検討、および、「保育」や「養護」、「教育」という概念を改めて検討することを通して、「保育」を、子どもの教育と福祉の権利を保障する営みとして捉えていきたいと考えています。



アピールポイント

保育者や一般の方を対象に、子どもに関わる福祉問題(貧困、虐待)や、保育政策に関する講演を行ってきました。

子どもと音楽と表現



こども学科

山本 学

● 連絡先

TEL : 054-202-2646

E-Mail : yamamoto@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

音楽教育, 音楽表現, 遊び歌 (手遊びなど), 作曲, 保育のピアノ



短期大学部

・校歌、園歌の作曲の依頼

2015年、玄海町立玄海みらい学園校歌（佐賀県）

2022年、竜王町立竜王こども園園歌（滋賀県）

2022年、私立反町ひかり保育園園歌（神奈川県）

を制作しました。

・子どもと保育と音楽と表現の講師・講演

子育て支援員育成の講師（子どもの生活と遊び）、静岡県教育委員会の幼稚園教諭初任者研修の講師（手遊び）、伊豆の国市ファミリーサポートセンター講師（子どもの遊び）、桐朋学園大学附属子供のための音楽教室講師、カワイ音楽コンクールの審査員などをしています。

・音楽教育の研究

2019年には『保育者になるためのピアノ教本～子どもの歌でいつのまにか上達する～』として、子どもの歌のみで構成され、順に学習していけば上達するピアノ教本を公開しました。メソッドのような構造的な上達を伴うシステムを得意としています。



アピールポイント

音楽や子どもの音楽表現に関するものならなんでもご相談ください。

新機軸の自然災害予測技術



自然災害研究部門 鴨川 仁

- 連絡先 TEL : 054-245-5600 FAX : 054-245-5603
E-Mail : kamogawa@u-shizuoka-ken.ac.jp
- ホームページ <https://www.masashikamogawa.com/>
<https://shizuoka-earth.org/>

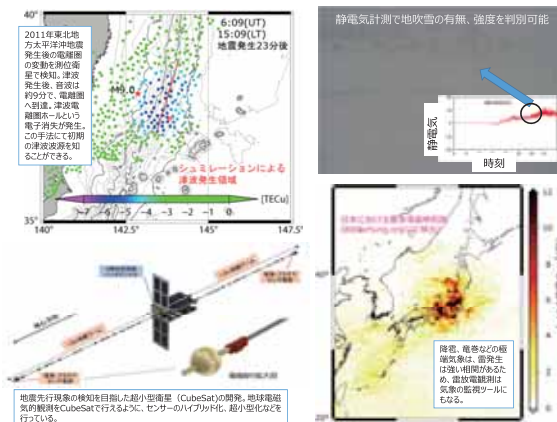
キーワード

自然災害予測, 地震, 雷, 火山, 津波, 地吹雪,
極端気象, ゲリラ豪雨, 人工衛星



日本では自然災害に対し常に脅かされています。その中で、地震を始めとした予測技術が極めて困難な現象でも、科学の進展とともに予測に結びつく研究成果が得られつつあります。これに加えて近年日本では地球温暖化に起因すると見られるゲリラ豪雨等の異常気象などが発生していることから、新しい予測技術は常に求められています。地球電磁氣的計測を中心とした多種多様な科学観測で自然災害予測技術の社会実装を目指します。以下が現在取り組んでいる研究テーマです。

- (1) 津波研究
 - ・津波電離圏ホール検知による早期津波予測技術開発
 - ・早期津波予測に特化した超小型衛星の開発
- (2) 地震研究
 - ・前震モニターによる地震準備過程の調査
 - ・地震先行検知による地震発生予測を目指した超小型衛星の開発
- (3) 環境科学研究 (雷・大気電気研究)
 - ・気候変動、極端気象を雷から監視
- (4) 火山噴火予測研究
 - ・地磁気やカメラ監視による富士山の火山噴火予測
- (5) 地吹雪研究
 - ・静電気計測による地吹雪予測



アピールポイント

10社を超える企業との共同研究、受託研究の実績があります。

ビックデータ解析による自然災害研究



自然災害研究部門 楠城 一嘉

- 連絡先 TEL: 054-245-5600 FAX: 054-245-5603
E-Mail: nanjo@u-shizuoka-ken.ac.jp
- ホームページ <https://shizuoka-earth.org/>

キーワード

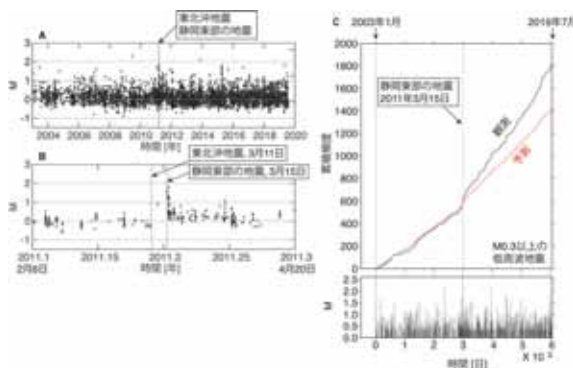
自然災害, リスク評価, ビックデータ, 火山, 津波, 地震, 南アルプス, 防災啓発, 確率・統計



統計学、パターン認識、人工知能などの現代科学技術を大量の自然災害のデータに網羅的に適用することで知識を取り出す、いわゆる“データマイニング”を駆使した研究を行っています。例えば、地震や火山の研究では、過去から現在までに起きた地震や火山の記録データを大量に収集し、取捨選択、保管、検索、共有、転送、解析、可視化を行います。そして、データの集合の傾向を掴み、地震・火山噴火の予測やリスク評価に資する情報を抽出します。このような“学”のノウハウにより“産・官・民”のデータを分析し、問題を素早く解決する支援ができます。以下に富士山噴火に備えてマグマ活動を監視する最新研究を紹介します。詳しい説明は下記URLまたは論文をご覧ください。

【URL】<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/news/20230710/>

【論文】Nanjo, K.Z., Yukutake, Y. & Kumazawa, T. Activated volcanism of Mount Fuji by the 2011 Japanese large earthquakes. Scientific Reports 13, 10562 (2023).
<https://doi.org/10.1038/s41598-023-37735-4>



この図は富士山深部のマグマ活動と関係が指摘されている低周波地震を研究した結果を示しています。東日本大震災の原因となるM9の東北沖地震の4日後に静岡東部で比較的大きめ(M5.9)の地震が誘発されました。静岡東部の地震の震源は富士山の山麓だったため、当時、噴火の危惧が高まりました。現在、噴火の危惧は払拭されましたが、本研究の結果により、静岡東部の地震は低周波地震を活発化させたことが判明し、噴火に至らなかったがマグマ活動に影響を与えた出来事だったことがわかりました。

アピールポイント

- 複数の企業や団体との研究実績があります
- 大学生・高校生向け読み物「地震と火山と防災のはなし」

50音索引

ア		
浅井	章良	050
浅井	知浩	010
雨谷	敬史	078
天野	政紀	146
天野	ゆかり	147
新井	英一	070
有元	志保	202
安	瓊伊	212

イ		
飯野	勝己	098
飯野	光浩	099
池田	麻左子	173
石井	由香	100
石川	智久	007
石川	義道	101
市川	陽子	074
伊藤	邦彦	031
伊藤	圭祐	058
伊藤	創平	059
伊藤	由彦	052
稲井	誠	019,044
犬塚	協太	102
井上	和幸	032
伊吹	裕子	089
伊美	友紀子	066
井本	智明	148
岩崎	邦彦	149
岩瀬	麻里	093
岩本	憲人	038

ウ		
植田	春美	174
上野	雄史	150
上野	克仁	151
内田	那敏	093
内田	信也	034,035
内海	佐和子	152
梅澤	和寛	088

梅本	英司	047
エ		
江上	寛通	044
江木	正浩	056
江口	智美	075
江原	勝幸	213

オ		
大内	仁志	019
大久保	あかね	153
大久保	誠也	154
太田	敏郎	077
太田	尚子	175
大槻	尚子	074
大橋	若菜	048
大原	裕也	064
大和田	裕美	176
岡本	衆資	081
岡村	明夢	103
沖本	まどか	155
奥田	郁子	214
小郷	尚久	050
長田	裕之	021
小田	紘久	156
落合	康裕	157
尾上	誠良	023

カ		
カクテルアムン	アムナー	158
賀川	義之	029
笠原	民子	159
柏倉	康治	034,035
刀坂	泰史	027
加藤	京里	177
金山	圭一	206
金子	雪子	009
鴨川	仁	223
唐木	晋一郎	092
川上	由香	070

河本	小百合	034,035
河原崎	泰昌	063
キ		
木澤	景	104
岸	昭雄	160
岸本	真治	022
北野	嘉章	105
木村	綾	161
木村	俊秀	008

ク		
串田	修	072
窪田	辰政	013
熊澤	茂則	053
栗木	清典	071
紅林	佑希	003
黒川	洵子	028
桑野	稔子	073

ケ		
剣持	久木	106

コ		
小出	裕之	011
国保	祥子	162
小窪	千早	107
児玉	昌美	028
湖中	真哉	108
小西	敦	163
小西	英之	037
小針	進	109
小林	亨	086
小林	公子	064
小林	佐知子	219
小牧	裕佳子	090
近藤	啓	026
近藤	健	017

サ		
---	--	--

斎藤	貴江子	095
坂巻	静佳	110
坂本	多穂	028
相良	陸成	164
佐藤	秀行	024
佐藤	真千子	111
佐藤	理乃	178
佐藤	留美	179
佐藤	友紀	065
澤崎	宏一	112
澤田	潤一	050
澤田	敬人	113

シ		
塩崎	悠輝	114
繁田	堯	056
志津	怜太	005
島村	裕子	055
清水	聡史	028
下山田	真	054
ジョナサンディハーン		122
榛葉	有希	069

ス		
菅原	清子	180
鈴木	郁美	181
鈴木	さやか	115
鈴木	俊文	215
須田	孝司	116
砂川	陽一	027

ソ		
園田	明人	117
染川	明	199
孫	暁剛	118

タ		
高木	剛	216
高田	佳輔	203
高橋	忠伸	002

高畑 幸	119
簗 宗一	182
滝田 良	017
竹内 英之	001
竹下 誠二郎	165
竹下（石塚）典子	204
竹部 歩美	120
谷 晃	084
谷 幸則	087
玉利 祐樹	166
田村 謙太郎	091
田村 敏広	121

チ	
脹 庭維	084

ツ	
角替 弘規	076

テ	
寺尾 康	123
寺田 祐子	058

ト	
徳村 雅弘	083
轟木 堅一郎	015
富澤 壽勇	124

ナ	
永井 大介	080
仲井 雪絵	207
中岡 正昭	183
中川 有加	184
中澤 秀一	217
長谷 和美	186
永谷 実穂	185
長谷 由紀子	208
中西 勝宏	047
長野 明子	125
中野 祥吾	062

中村 順行	094
奈倉 京子	126
成瀬 早苗	187
楠城 一嘉	224

ニ	
西村 晶絵	127

ノ	
野口 有紀	209
野口 理子	167
野呂 和嗣	079

ハ	
橋川 裕之	128
橋本 博	040
橋本 勝	129
長谷部 美紀	188
秦 俊貴	073
浜 由樹子	130
濱島 義隆	044
浜辺 俊秀	027
林 恵嗣	205
林 久由	068
林 みよこ	189
原 清敬	085
原 幸大	041
原 雄二	045

ヒ	
東野 定律	168
菱木 麻美	042
平山 洋	131

フ	
ファイファー マティアス	132
福島 恭子	190
藤田 景子	191
藤田 雅也	220
藤田 美枝子	210

藤浪 大輔	060
浏上 壮太郎	043
鮎 信学	057
古庄 仰	016

ヘ	
ヘムストック ウェンディ	192

ホ	
ホーク フィリップ	014
保坂 卓臣	006
保坂 利男	069
星 有紀	193
細岡 哲也	066
細川 光洋	133
堀 芽久美	194
堀内 賢志	134
本同 宏成	061
本田 千尋	053

マ	
前野 真由美	195
前山 亮吉	135
牧野 正和	082
増井 昇	084
増田 修一	055
松浦 崇	221
松岡 清志	169
松平 千佳	218
松森 奈津子	136
眞鍋 敬	036
丸山 始美	196

ミ	
三浦 進司	065
三浦 基靖	034,035
三沢 萌伽	197
宮崎 晋生	137
宮澤 典子	198
三好 規之	067

明正 大純	086
-------	-----

ム	
武藤 伸明	170
村上 和弥	054
村上 光	046
村上 央	050

モ	
望戸 愛果	138
森 潔	049
森 直香	139
森本 達也	027
森山 優	140

ヤ	
谷澤 康玄	030
山口 深雪	039
山口 桃生	007
山下 賢二	044
山下 早苗	200
山下 光	141
山田 紋子	201
山田 幸平	025
山田 静雄	051
山田 浩	033
山本 健介	142
山本 学	222

ユ	
湯瀬 裕昭	171

ヨ	
吉岡 泰淳	067
吉田 直樹	211
吉成 浩一	004
吉村 文彦	018
米澤 正	012
米野 みちよ	143
米山 優子	144

リ
リダン ポール アラン 145

ワ
若林 敬二 096
渡辺 賢二 020
渡邊 貴之 172
藁科 カ 097

静岡県立大学へのご案内

草薙キャンパス Kusanagi Campus

● アクセスマップ



● 所在学部

学部 | 薬学部 / 食品栄養科学部 / 国際関係学部 / 経営情報学部 / 看護学部※
大学院 | 薬食生命科学総合学府 / 国際関係学研究科 / 経営情報イノベーション研究科 / 看護学研究科
※ 看護学部は、草薙・小鹿両キャンパスでの授業となっています。

● 最寄り駅からのアクセス

電車 | JR「草薙」駅、または静岡鉄道「県立美術館前」駅下車、同「草薙」駅から徒歩15分
バス | しずてつジャストライン
「草薙駅前」バス停より草薙団地行き(三保草薙線)で「県立大学入口」下車徒歩5分
※平日の午前のみ、「県立大学前」下車が可能(下車0分)

〒422-8526 静岡県静岡市駿河区谷田52-1

TEL 054-264-5102 (代表)

WEB <http://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/>

小鹿キャンパス Oshika Campus

● アクセスマップ



● 所在学部

学部 | 看護学部※
短期大学部 | 歯科衛生学科 / 社会福祉学科 / こども学科
※ 看護学部は、草薙・小鹿両キャンパスでの授業となっています。

● 最寄り駅からのアクセス

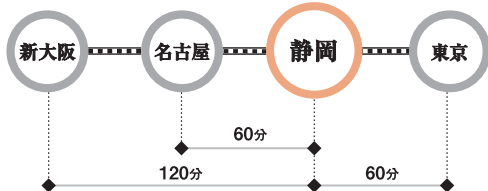
電車 | 静岡鉄道「柚木駅」下車、徒歩20分。JR「東静岡駅」下車、徒歩20分。
バス | しずてつジャストライン
● JR静岡駅北口8番乗り場より「美和大谷線(静岡大学または東大谷方面)」または「11番乗り場」より「小鹿線」で「小鹿局前」下車徒歩3分
● JR静岡駅南口21番乗り場より「みなみ線(曲金経由)」で「小鹿局前」下車徒歩3分

〒422-8021 静岡県静岡市駿河区小鹿2丁目2-1

TEL 054-202-2600 (代表)

WEB <http://oshika.u-shizuoka-ken.ac.jp/>

● 主要都市から静岡駅までのアクセス



※各駅より新幹線「ひかり」号利用
※JR東海時刻表より抜粋。乗り換え時間等は含みません。

東海道新幹線

発行

静岡県公立大学法人 静岡県立大学・同短期大学部
産学官連携推進本部

事務局
地域・産学連携推進室

〒422-8526 静岡県静岡市駿河区谷田52-1

TEL 054-264-5124 (直通)

E-mail renkei@u-shizuoka-ken.ac.jp



沼津信用金庫

当金庫では、多様な応援体制や金融支援プログラムなどを用意しており、お客様との対話を通じて地域の皆さまとともに歩んでいくことが地域金融機関としての役割であると考えております。

『ぬましん未来応援ファンド』

当金庫ではファンドを組成し、成長を目指す企業様に対して資金調達の支援をしております。

創業支援・地域企業の成長支援・上場を目指すお取引先の資金ニーズに出資を目的とした『ぬましん未来応援ファンド』を組成しました。



「ぬましんCOMPASS」は沼津信用金庫が運営するシェアオフィス・コワーキングスペース・ワークショップスタジオの機能が1つになった、まちづくりプラットフォームです。地域企業と起業家のマッチングを促進するとともに地域ネットワークを活用した伴走支援を展開しています。

